

奈良県感染症発生動向調査事業報告

平成 29 年 内科・小児科感染症の概要

1. 平成 29 年の流行状況（定点当り）

＜全国＞今年流行した疾病は手足口病で平成 27 年の定点当り 121.33 に次いで 113.68 と多く、インフルエンザも昨年（平成 28 年）の 353.10 に次いで 326.02 と多かった。RS ウイルス感染症も 44.18 と平成 27 年の 38.13、平成 28 年の 33.00 に比べると多発した年といえる。昨年より報告数の多かった疾病は RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、手足口病であった。著しく少なかった疾病は伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎であった。

＜奈良県＞県で流行した疾病は RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A 群溶連菌咽頭炎、手足口病で、RS ウイルス感染症と A 群溶連菌咽頭炎は過去 20 年間で、RS ウイルス感染症は 65.74、A 群溶連菌咽頭炎は 103.29 と最も多い報告があった。また咽頭結膜熱は 33.82 で平成 18 年の 42.17 以来の多くの報告があった。手足口病は全国と同様、一昨年（平成 27 年）の 125.71 に次いで多く 97.91 で、昨年（平成 28 年）12.06 の約 8 倍の報告があった。因みに、過去 20 年間では平成 12 年の大流行（141.71）から 3 番目に多発した年であった。全国より多かった疾病は RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、水痘、突発性発疹であった。全国と比べるとインフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病は報告の少ない疾病であった。

2. 近隣府県と奈良県の関連状況（定点当り）

奈良県が近隣府県（三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・和歌山県）よりも多かった疾病は RS ウイルス感染症、水痘、突発性発疹であったが、全国から見ると RS ウイルス感染症は 7 番目、水痘は 8 番目、突発性発疹は 17 番目に多かった。咽頭結膜熱は三重県に次いで、A 群溶連菌咽頭炎は大阪府に次いで、伝染性紅斑は兵庫県に次いで多かった。

3. 地区別（保健所別）での報告数（定点当り）の状況

地区別で報告数の多い疾病を見てみると、奈良市保健所はインフルエンザ、突発性発疹、百日咳が、郡山保健所は咽頭結膜熱、水痘、百日咳、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎が、中和保健所（東）は RS ウイルス感染症、感染性胃腸炎、手足口病、伝染性紅斑が多く、中和保健所（西）は水痘と百日咳を除いて、すべての疾病で報告が多かった。吉野保健所では A 群溶連菌咽頭炎が多発していた。内吉野保健所は特に多発していた疾病は見られなかった。

4. 月別の発生状況（定点当り） 参考：流行度表

各疾病の月別流行状況を見てみると、インフルエンザは 1～2 月に、RS ウイルス感染症は 8～12 月に、咽頭結膜熱は 4～7 月に、A 群溶連菌咽頭炎は 2～7 月と 10～12 月に、手足口病は 6～8 月と 10～11 月にかけて流行した。他の疾病は流行は見られなかったが、感染性胃腸炎は 6 月に、水痘は 11 月に、伝染性紅斑は 6 月に、突発性発疹は 5 月

に、百日咳とヘルパンギーナは7月に、流行性耳下腺炎は1月に報告が最も多く見られた。

5. 世代別（1歳平均）での報告数（実数）の状況

インフルエンザは幼児期 549.2 件、学童期 544.4 件と多く、RS ウイルス感染症は乳児期が 601.0 件、幼児期が 318.4 件、咽頭結膜熱は幼児期が 179.2 件、乳児期が 91.0 件、A 群溶連菌咽頭炎は幼児期が 395.0 件、学童期が 156.1 件、感染性胃腸炎は幼児期が 839.0 件、乳児期が 483.0 件、水痘は幼児期が 86.2 件、学童期が 36.1 件、手足口病は幼児期が 563.8 件、乳児期が 333.0 件、伝染性紅斑は幼児期が 13.4 件、突発性発疹は乳児期 273.0 件、幼児期 113.2 件、百日咳は乳児期が 3.0 件、ヘルパンギーナは幼児期が 110.2 件、乳児期が 70.0 件、流行性耳下腺炎は幼児期が 76.2 件、学童期が 47.4 件と多く、予防接種が行われている疾病にはその影響が反映されていた。

足立 豊彦 記

平成29年/平成28年/平成27年の全国と奈良県での報告数（定点当り）

疾患名	平成29年		平成28年		平成27年	
	全国	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県
インフルエンザ	326.02	223.93	353.10	306.33	237.41	149.63
RSウイルス感染症	44.18	65.74	33.00	38.97	38.13	53.38
咽頭結膜熱	29.21	33.82	21.37	22.82	22.93	19.35
A群溶連菌咽頭炎	116.31	103.29	116.39	83.32	127.54	81.94
感染性胃腸炎	275.94	214.32	352.72	342.74	313.95	228.85
水痘	19.04	23.29	20.70	16.35	24.66	15.26
手足口病	113.68	97.91	21.88	12.06	121.33	125.71
伝染性紅斑	3.94	3.26	16.30	25.06	31.31	15.56
突発性発疹	23.21	24.71	24.07	26.62	27.00	22.79
百日咳	0.53	0.32	0.93	0.41	0.85	0.32
ヘルパンギーナ	27.26	20.32	40.95	32.12	31.22	20.15
流行性耳下腺炎	24.67	24.18	50.32	76.00	25.76	11.18

過去20年間の年次別発生数（定点当り）の推移

	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
インフルエンザ	118.22	211.15	235.32	139.65	99.33	104.49	236.78	143.95	239.80	168.73
RSウイルス感染症	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2.49
咽頭結膜熱	0.59	3.63	4.39	3.17	2.74	0.83	13.86	19.66	11.09	42.17
A群溶連菌咽頭炎	26.00	27.78	27.75	36.40	30.31	35.09	28.14	42.37	38.63	54.91
感染性胃腸炎	144.70	154.78	293.50	287.40	313.51	288.00	252.34	300.57	262.40	320.06
水痘	75.04	69.93	87.63	87.63	84.74	77.69	68.97	57.26	59.09	64.29
手足口病	42.85	37.96	13.83	141.71	12.29	47.09	25.66	17.43	33.60	21.57
伝染性紅斑	28.81	16.04	41.94	4.06	22.91	20.09	8.57	8.46	7.97	5.26
突発性発疹	22.33	30.67	5.31	37.63	33.86	32.31	28.60	26.77	22.71	24.06
百日咳	0.48	0.52	1.18	1.26	0.63	0.69	0.37	0.74	0.43	0.34
ヘルパンギーナ	32.44	44.74	81.58	12.51	50.83	27.43	58.20	35.17	34.03	23.46
流行性耳下腺炎	33.74	72.00	55.97	33.91	73.00	74.46	34.66	32.71	63.17	30.71

	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
インフルエンザ	219.36	84.29	508.78	36.22	175.04	264.87	172.26	300.72	149.63	306.33	223.93
RSウイルス感染症	10.43	12.43	5.06	18.31	15.49	20.91	26.73	29.74	53.38	38.97	65.74
咽頭結膜熱	16.29	23.34	11.94	13.49	22.77	16.34	16.51	29.09	19.35	22.82	33.82
A群溶連菌咽頭炎	37.49	43.00	26.31	29.80	47.00	39.49	32.75	52.56	81.94	83.32	103.29
感染性胃腸炎	262.97	283.09	252.43	315.34	215.71	286.66	224.67	227.68	228.85	342.74	214.32
水痘	55.89	60.89	50.83	46.71	61.63	37.40	35.32	37.62	15.26	16.35	23.29
手足口病	9.97	40.51	13.06	33.43	69.83	6.31	61.33	12.56	125.71	12.06	97.91
伝染性紅斑	29.17	4.66	3.00	8.54	26.26	3.97	0.93	3.68	15.56	25.06	3.26
突発性発疹	20.23	20.40	20.14	17.94	17.57	15.77	15.93	18.35	22.79	26.62	24.71
百日咳	0.26	0.66	1.09	1.23	0.97	0.37	0.03	0.06	0.32	0.41	0.32
ヘルパンギーナ	22.46	27.91	20.09	32.69	16.63	15.91	18.05	37.44	20.15	32.12	20.32
流行性耳下腺炎	10.94	23.71	51.91	45.51	12.91	10.86	4.48	6.62	11.18	76.00	24.18

平成29年全国と近隣府県の報告数（定点当り）

	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶連菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
総数（全国）	326.02	44.18	29.21	116.31	275.94	19.04	113.68	3.94	23.21	0.53	27.26	24.67
三重県	315.14	56.11	37.64	82.73	257.49	17.76	121.24	2.47	24.47	0.51	28.36	16.42
滋賀県	277.87	26.52	18.35	58.32	283.97	23.06	124.06	0.84	19.55	0.19	32.42	26.97
京都府	259.56	27.05	21.41	77.59	252.11	12.55	81.17	1.26	17.34	0.32	19.28	16.34
大阪府	253.08	58.44	26.06	108.06	267.98	20.16	112.14	2.61	23.01	0.55	24.96	24.97
兵庫県	261.47	50.64	29.2	74.88	321.27	17.62	118.59	4.34	19.85	0.35	26.08	26.52
奈良県	223.93	65.74	33.82	103.29	214.32	23.29	97.91	3.26	24.71	0.32	20.32	24.18
和歌山県	196.96	45.83	20.97	42.8	200.17	14.27	81.23	1.27	21.27	0.37	21.67	62.63

平成29年地区別（保健所別）の報告数（定点当り）

疾患名	奈良市HC	郡山HC	中和HC東	中和HC西	内吉野HC	吉野HC	計
インフルエンザ	228.21	218.14	202.00	279.80	140.00	181.00	223.93
RSウイルス感染症	36.11	39.11	87.71	140.00	1.00	51.50	65.74
咽頭結膜熱	22.78	36.44	31.14	55.17	0.00	34.00	33.82
A群溶連菌咽頭炎	59.78	78.78	35.57	300.50	1.00	106.00	103.29
感染性胃腸炎	164.56	174.67	242.86	374.50	131.00	78.00	214.32
水痘	22.78	26.44	22.71	22.67	17.00	18.50	23.29
手足口病	81.00	98.44	101.71	147.83	15.00	50.00	97.91
伝染性紅斑	2.67	1.56	5.14	3.17	7.00	5.50	3.26
突発性発疹	27.11	18.67	24.86	39.17	1.00	9.00	24.71
百日咳	0.56	0.44	0.29	0.00	0.00	0.00	0.32
ヘルパンギーナ	17.89	22.44	17.57	21.83	16.00	29.00	20.32
流行性耳下腺炎	16.67	34.22	22.57	27.33	12.00	15.00	24.18

平成29年 月別の発生数（定点当り）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	72.19	87.41	18.00	5.94	1.70	0.16	0.11	0.04	0.22	0.37	3.50	28.85	223.93
RSウイルス感染症	3.71	2.76	2.42	3.15	0.88	0.73	1.68	6.54	11.62	7.74	8.96	10.88	65.74
咽頭結膜熱	1.09	1.94	1.53	3.94	5.47	5.91	2.44	1.93	1.88	1.35	1.53	2.09	33.82
A群溶連菌咽頭炎	4.44	8.15	10.54	8.32	9.79	13.22	7.68	4.40	4.41	6.56	8.09	8.62	103.29
感染性胃腸炎	11.71	12.12	12.56	21.29	26.50	31.18	16.71	11.44	10.35	11.00	12.59	19.94	214.32
水痘	1.06	0.62	0.82	1.24	1.85	2.16	1.44	1.25	1.94	1.65	3.84	3.41	23.29
手足口病	0.62	0.62	0.66	0.53	3.03	8.89	33.03	19.62	4.56	8.32	6.09	2.85	97.91
伝染性紅斑	0.15	0.12	0.24	0.24	0.29	0.42	0.32	0.14	0.29	0.29	0.26	0.21	3.26
突発性発疹	1.71	1.53	1.67	1.97	2.62	2.12	1.62	2.02	2.12	2.03	1.79	1.62	24.71
百日咳	0.00	0.00	0.02	0.00	0.03	0.00	0.18	0.00	0.00	0.03	0.05	0.00	0.32
ヘルパンギーナ	0.09	0.12	0.07	0.21	0.71	1.86	5.56	3.81	2.50	1.79	1.15	0.74	20.32
流行性耳下腺炎	4.00	3.44	3.36	2.47	2.44	2.19	1.24	1.08	0.62	0.74	0.56	0.24	24.18

参考：過去30年間（昭和62年～平成28年）の流行度（発生頻度・定点当り） 平成29年11月1日改訂版

流行度	散発	少し流行	やや流行	流行	大流行
発生頻度 (%)	0-49	50-74	75-89	90-96	97-100
インフルエンザ	-0.59	0.60-7.99	8.00-47.49	47.50-139.99	140.00-
RSウイルス感染症	-0.46	0.47-2.29	2.30-3.84	3.85-7.79	7.80-
咽頭結膜熱	-0.29	0.30-1.24	1.25-2.24	2.25-3.36	3.40-
A群溶連菌咽頭炎	-1.79	1.80-3.44	3.45-5.19	5.20-7.49	7.50-
感染性胃腸炎	-13.04	13.05-22.99	23.00-33.79	33.80-51.14	51.15-
水痘	-4.24	4.25-6.29	6.30-8.19	8.20-10.79	10.80-
手足口病	-0.79	0.80-2.39	2.40-5.99	6.00-13.49	13.50-
伝染性紅斑	-0.59	0.60-1.49	1.50-2.69	2.70-4.29	4.30-
突発性発疹	-1.79	1.80-2.39	2.40-3.04	3.05-3.64	3.65-
百日咳	0	0.01-0.10	0.11-0.14	0.15-0.34	0.35-
ヘルパンギーナ	-0.24	0.25-1.59	1.60-7.19	7.20-13.99	14.00-
流行性耳下腺炎	-2.29	2.30-3.99	4.00-5.99	6.00-7.54	7.55-

平成29年 世代別（1歳平均）の報告数（実数・件数）

年代別・世代別 年齢（歳）	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期	老人期
	0	1-5	6-14	15-19	20-59	60-
インフルエンザ	131.0	549.2	544.4	176.8	64.9	20.9
RSウイルス感染症	601.0	318.4	4.6	0.0	0.0	-
咽頭結膜熱	91.0	179.2	17.6	0.0	0.1	-
A群溶連菌咽頭炎	23.0	395.0	156.1	4.2	1.1	-
感染性胃腸炎	483.0	839.0	182.2	32.8	10.1	-
水痘	27.0	86.2	36.1	0.2	0.1	-
手足口病	333.0	563.8	16.9	0.4	0.3	-
伝染性紅斑	3.0	13.4	4.3	0.0	0.0	-
突発性発疹	273.0	113.2	0.1	0.0	0.0	-
百日咳	3.0	1.0	0.2	0.0	0.0	-
ヘルパンギーナ	70.0	110.2	6.8	0.6	0.1	-
流行性耳下腺炎	4.0	76.2	47.4	0.4	0.1	-

インフルエンザ定点分
(小児科定点・内科定点)

1.インフルエンザ

図 1-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

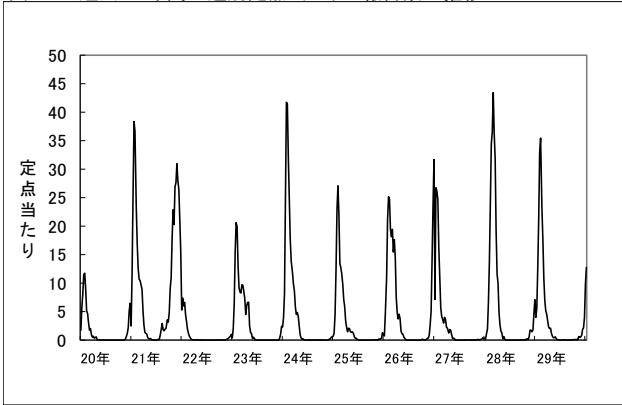


図 1-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

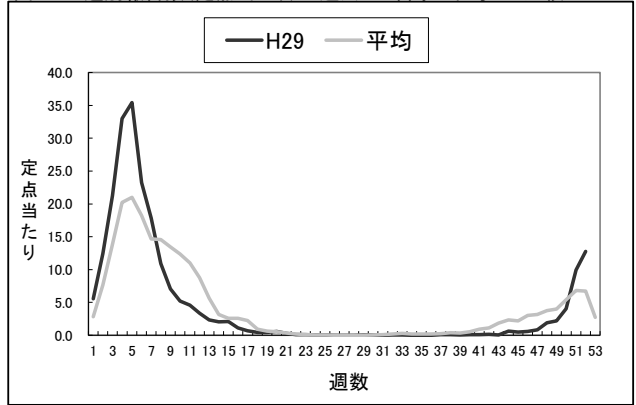


図 1-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

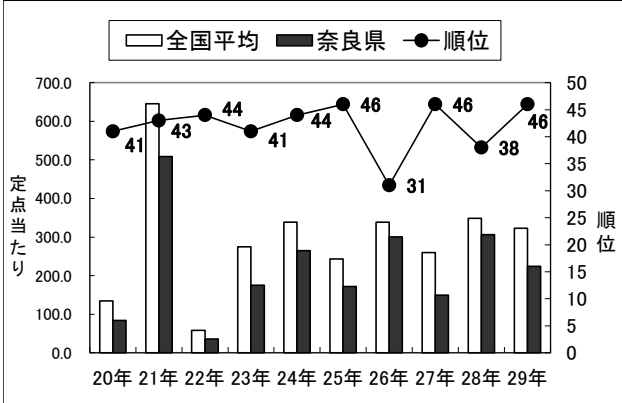


図 1-6 年齢別報告数(実数)

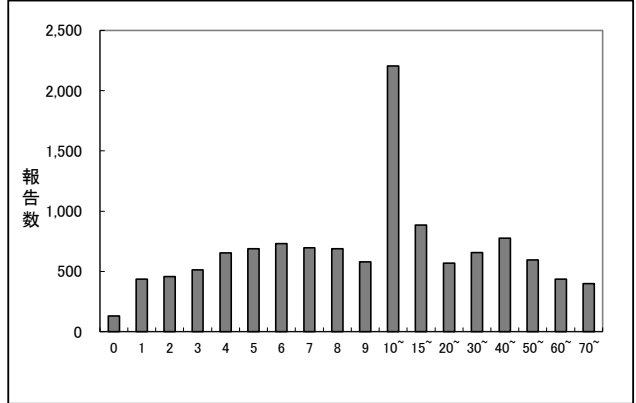


図 1-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

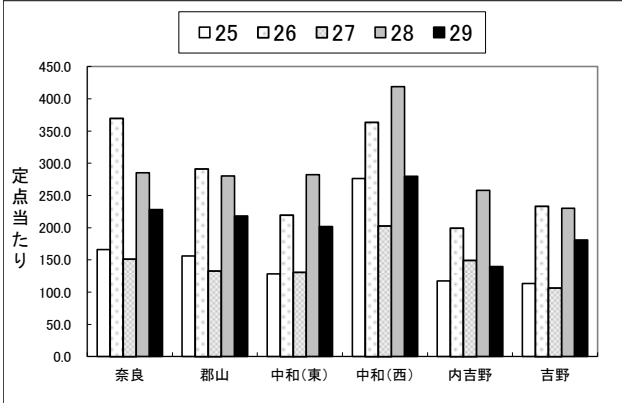
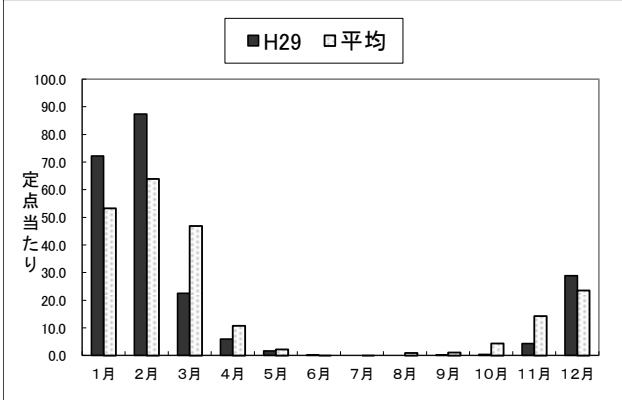


図 1-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県の全報告数は120,92例、定点あたりの報告数は223.93であり、昨年より減少した。
 保健所別の定点当たりの報告数は、昨年と同じく、最多が中和(西)保健所の279.80、次いで奈良市保健所の228.21であった。
 流行の時期は11月から流行の兆しが見られ、月別の定点当たりの報告数では、2月が87.41と最多で4月が5.94となり、終息を認めた。
 年齢別では、1歳から15歳未満の罹患が多く、特に6歳(731例)7歳(697例)の児童に多く分布した。
 2017年のインフルエンザは、2年ぶりにAH3(香港型)が主流となり、1月から3月にかけて40株分離した。また、B型についてはビクトリア系のみとなった。
 シーズンが変わり、10月以降では例年と異なり、B型、AH3(香港型)の3種のウイルスが同時に検出された。

(榎原 葉月 記)

小兒科定点分

2.RSウイルス感染症

図 2-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

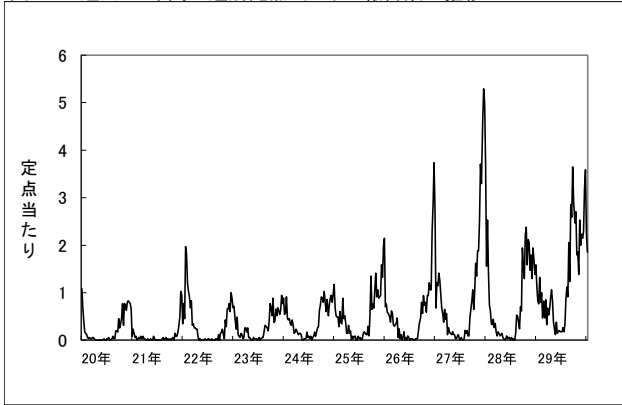


図 2-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

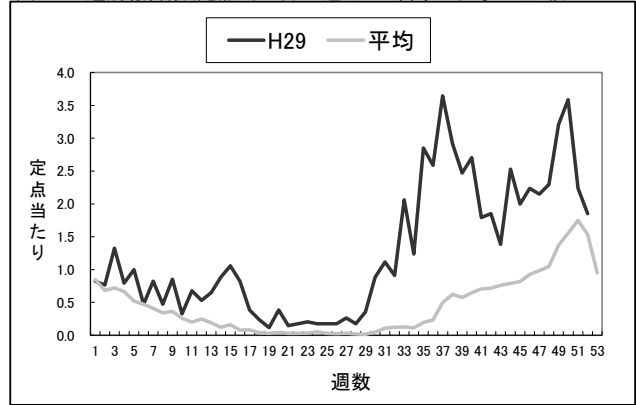


図 2-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

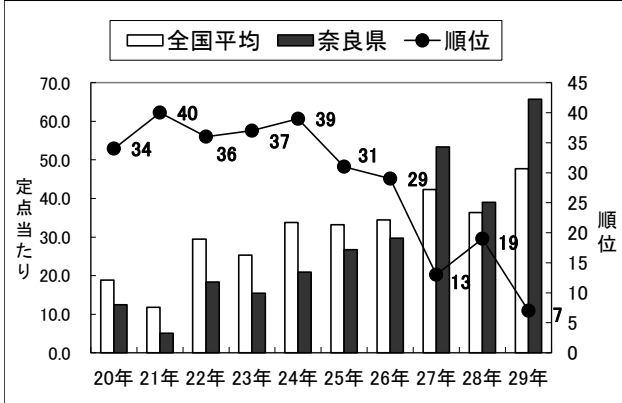


図 2-6 年齢別報告数(実数)

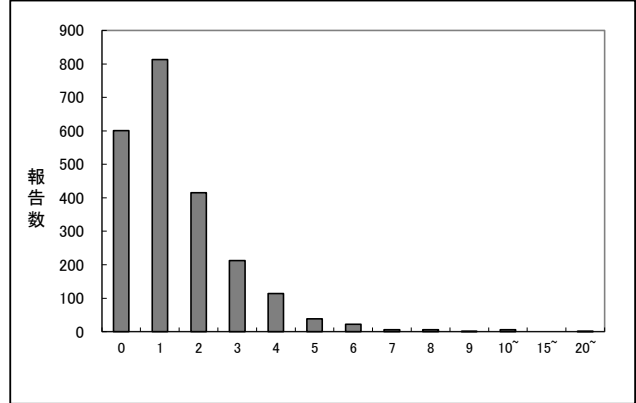


図 2-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

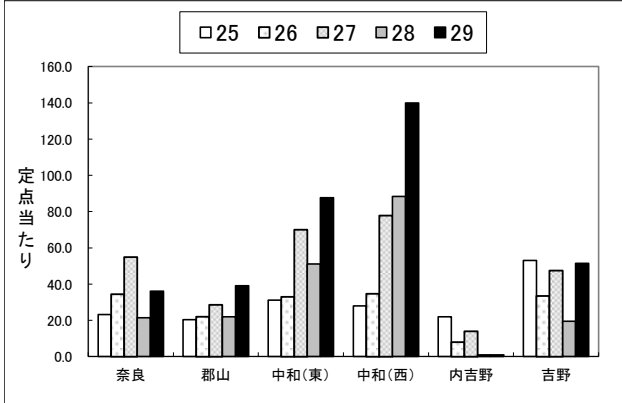
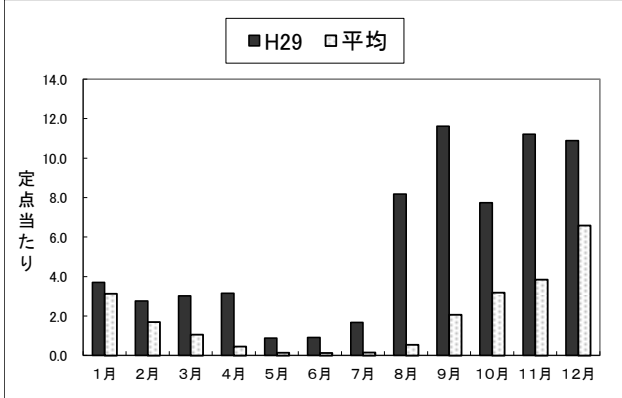


図 2-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県の全報告数は2235例と過去10年で最多となった。保健所別定点あたりの報告数は、昨年と同じく最多が中和(西)保健所の140.00、次いで中和(東)保健所の87.71であった。月別報告数では8月から激増し、12月までほぼ同じ水準で推移した。年齢別では0~4歳児、特に0歳1歳が特に多かった。RSウイルスは、ここ数年8月から検出が認められており、2017年も8月以降12月までウイルスが16株検出された。検出は8月3株、9月9株と例年より早い時期にウイルス検出がピークとなった。

(榎原 葉月 記)

3.咽頭結膜熱

図 3-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

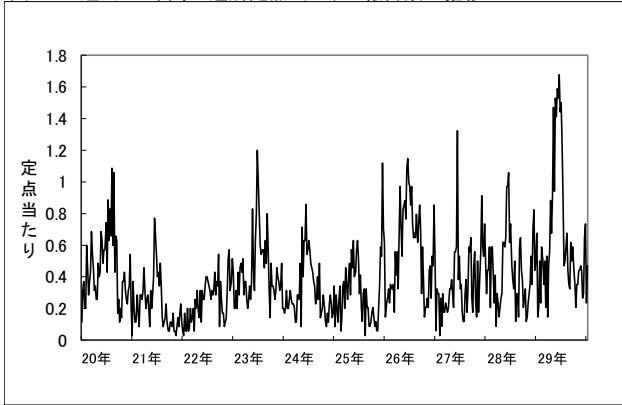


図 3-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

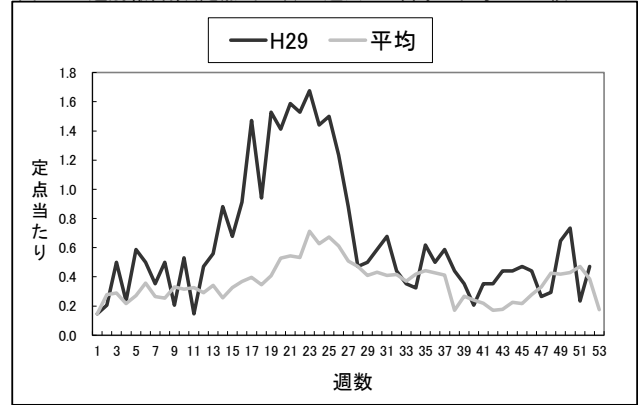


図 3-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

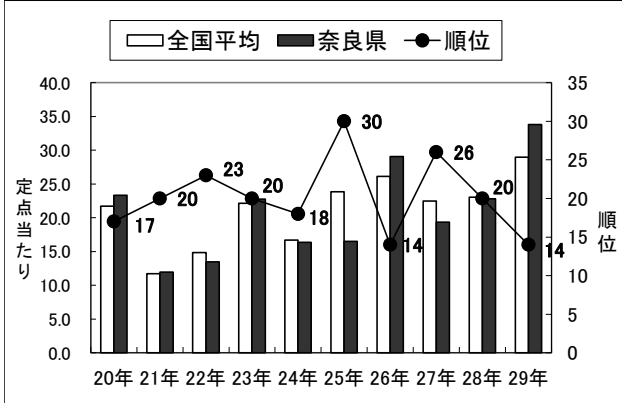


図 3-6 年齢別報告数(実数)

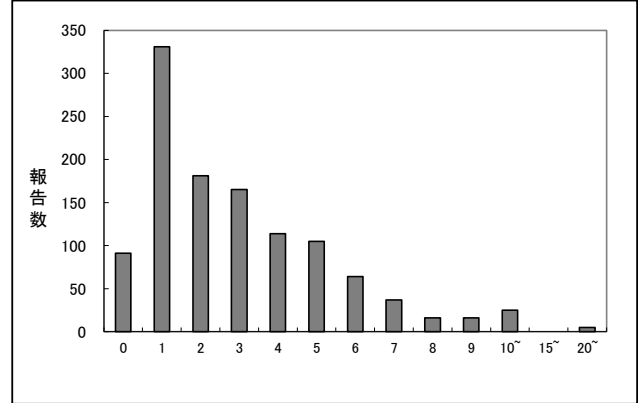


図 3-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

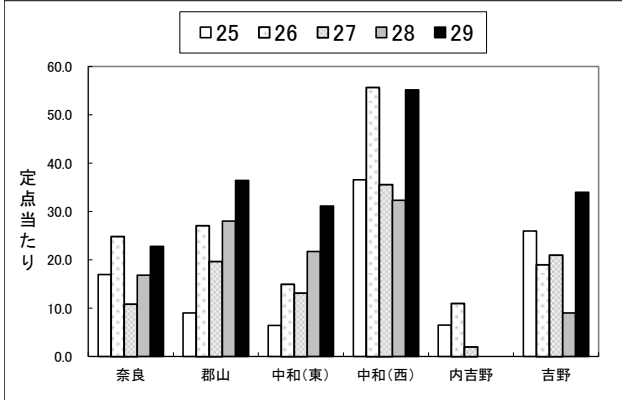
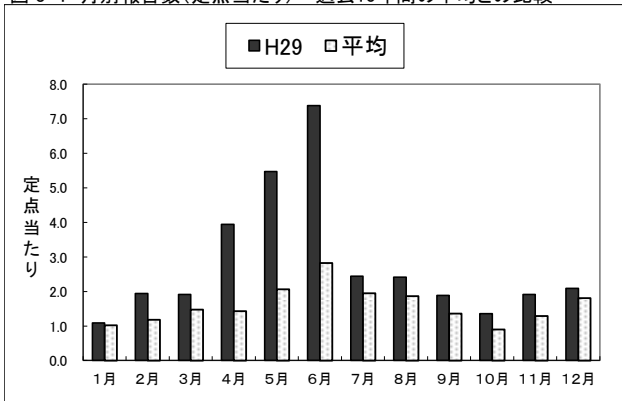


図 3-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

奈良県の全報告数は1150で、過去10年で最多となった。
保健所別の定点あたりの報告数では、昨年と同じく最多が中和(西) 55.17、次いで郡山保健所31.14であった。
月別報告数では4月から増加し、6月がピークとなり、7月から漸減している。
年齢別では1歳から3歳児が多く、特に1歳児が多かった。
咽頭結膜熱患者からの検体搬入は1例のみであり、アデノウイルス3型を検出した。

(榑原 葉月 記)

4.A 群溶連菌咽頭炎

図 4-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

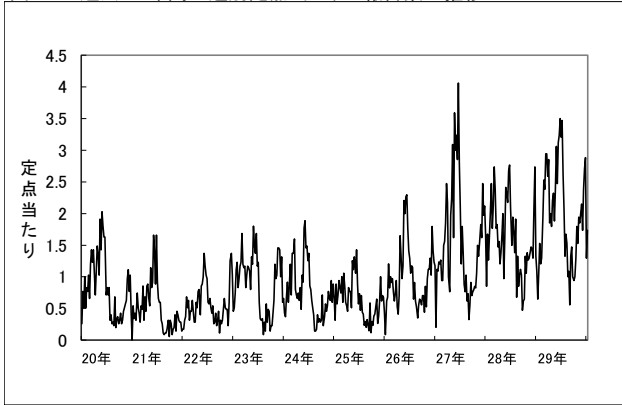


図 4-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

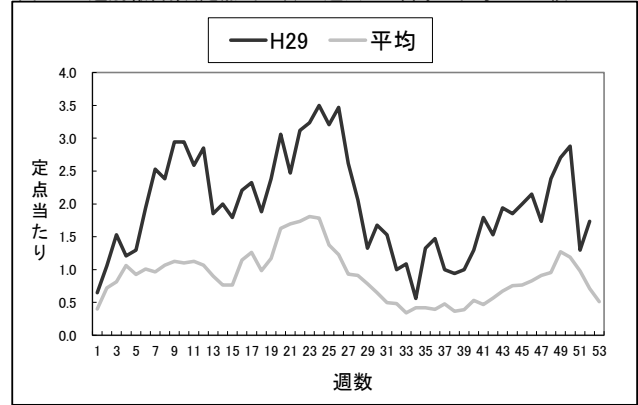


図 4-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

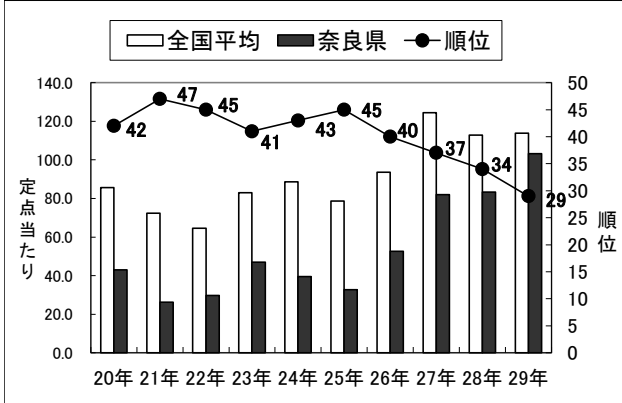


図 4-6 年齢別報告数(実数)

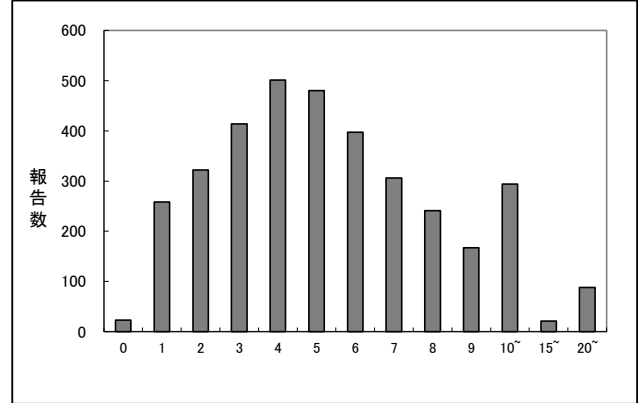


図 4-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

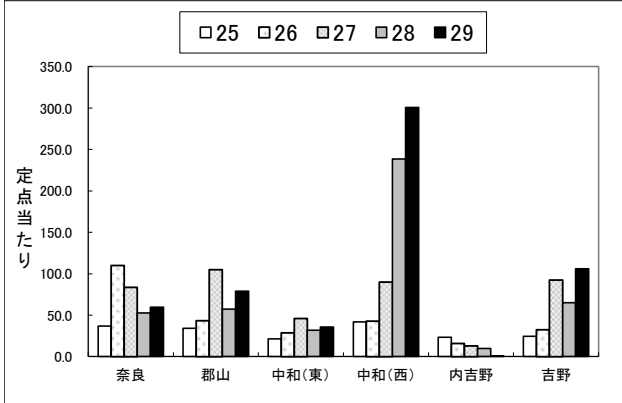
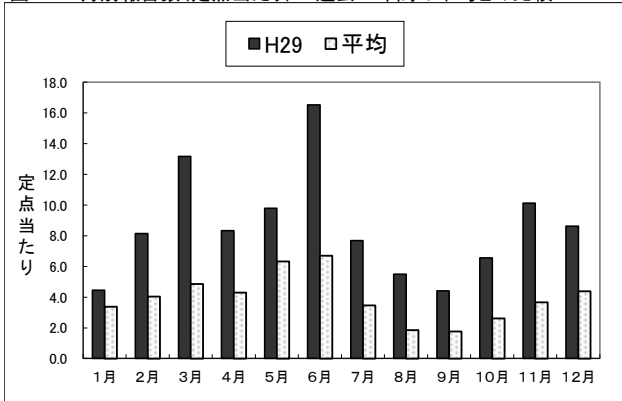


図 4-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年度における全報告数は3,512例、定点当たり103.29で、全国平均(116.31)より下回っているものの、前年(83.32)より増加している。

過去10年間の定点当たり報告数でみると、急増した平成27年、翌28年より更に上回り、過去10年間で最高となり、都道府県別定点当たりの報告数順位でも過去最高の29位となった。

保健所別定点当たりの報告数を見ると、中和保健所(西)が突出して報告数が多く(300.5)、次に吉野保健所(106)、郡山保健所(78.78)、奈良市保健所(59.78)、中和保健所(東)(35.57)で、いずれも昨年より増加していた。内吉野保健所は平成25年以降年々減少し、過去5年で最低(1.00)であった。

月別の定点当たり報告数を見ると、1、5月以外は過去10年間の平均の2倍以上の報告数に達し、特に3月(13.18)、6月(16.53)が多かった。週別では、第7～12週、第19～27週、第47～50週の報告数が2.00台を上回り、第20週と第22～26週は3.00を越え、例年同様、春先と初冬に小ピーク、初夏に大ピークを示した。

年齢別の実報告数を見ると、4歳(501例)をピークにほぼ一峰性に分布し、幼児期から小学校低学年にあたる1歳～9歳の年代で3,086例が報告され、全体の87.9%を占めていた。

(水野 文子 記)

5. 感染性胃腸炎

図 5-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

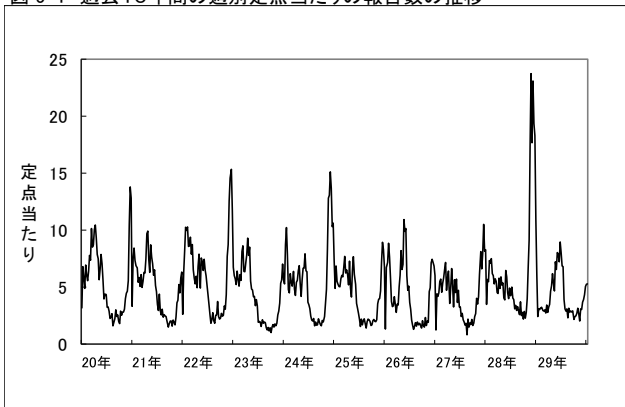


図 5-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

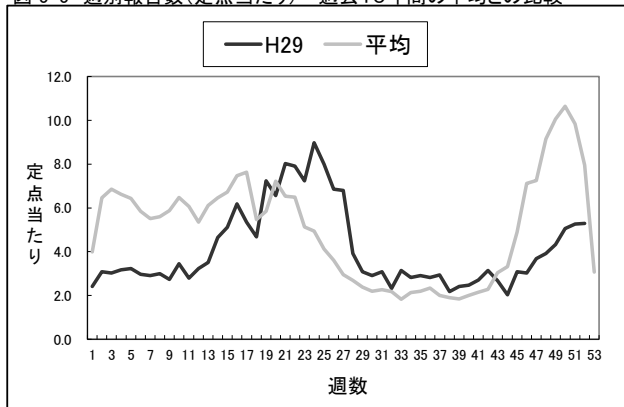


図 5-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

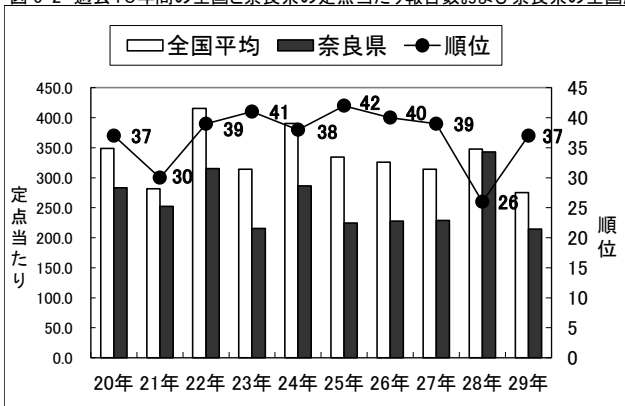


図 5-6 年齢別報告数(実数)

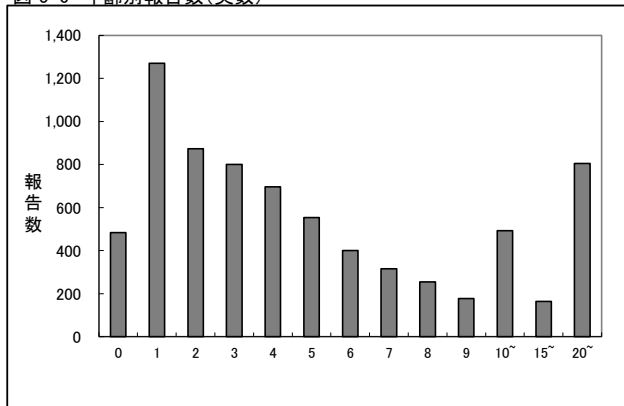


図 5-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

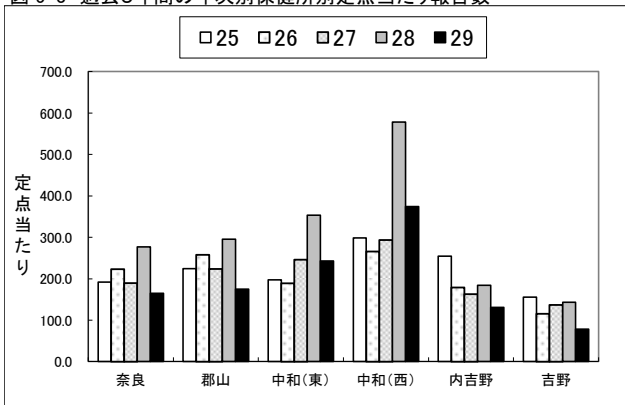
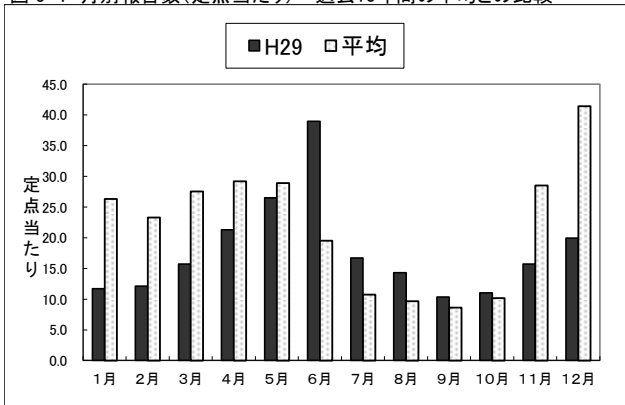


図 5-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年度における全報告数は7,287例、定点当たり報告数は214.32(全国平均275.94)で、急増した前年(11,653例)より減少し、平成27年度と同等の報告数に戻った。過去10年間の定点当たり報告数と比べても平成23、25～27年とほぼ同じで、都道府県別定点当たり報告数も37位と例年のレベルに戻った。

保健所別の定点当たり報告数は、多い順に中和保健所(西)(374.50)、中和保健所(東)(242.86)、郡山保健所(174.67)、奈良市保健所(164.56)、内吉野保健所(131.00)、吉野保健所(78.00)で昨年と同じだが、いずれも報告数は昨年よりかなり少なく、中和(西)(東)保健所以外は平成27年以前の報告数をも下回った。

月別の定点当たり報告数をみると、冬期の1月、12月は過去10年間の平均の半分(それぞれ19.94、11.71)、2～4月、11月も例年より少ない。一方、過去10年間の平均のほぼ2倍以上の報告数(38.97)であった6月をピークに7月～8月も報告数が多く夏期に多い傾向であった。週別定点当たりの変動からも平成29年は冬期のピークははっきりせず、春から夏期にかけてのピークが見て取れる。

年齢別の報告数をみると、1歳(1,270例)が最多、2歳(874)、3歳(801)、4歳(696)、5歳(554)と乳幼児期層で全体の57.6%を占めている。以後年代が上がるにつれ減少する。

感染性胃腸炎と診断された検体からは、15種類のウイルスが検出された。最も多く検出されたのはA群ロタウイルス(78株)で1月から6月まで検出が続き、ピークは4月であった。ノロウイルスは、ほぼ年間を通して検出(29株)が認められ、感染性胃腸炎の主な原因となるこの2つのウイルスの検出パターンが年間の発生動向にも影響を与えたと考えられる。

小児科定点のため、家族内感染以外の『感染性胃腸炎』成人例はカウントされないこともある。一方集団発生事例では規模が大きければ報告数は急増する。増減に関わらず、初冬から春先までに多いノロウイルス感染、春先から増加し5月頃まで続くロタウイルス感染と、夏場の細菌性食中毒菌や他の病原ウイルスによるものなど、年間を通して注意すべきである。

(水野 文子 記)

6.水痘

図 6-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

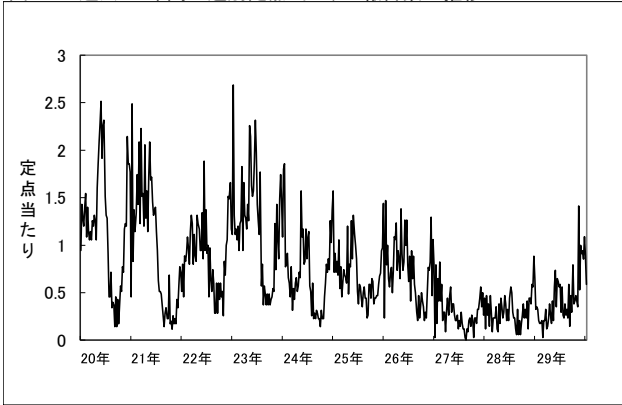


図 6-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

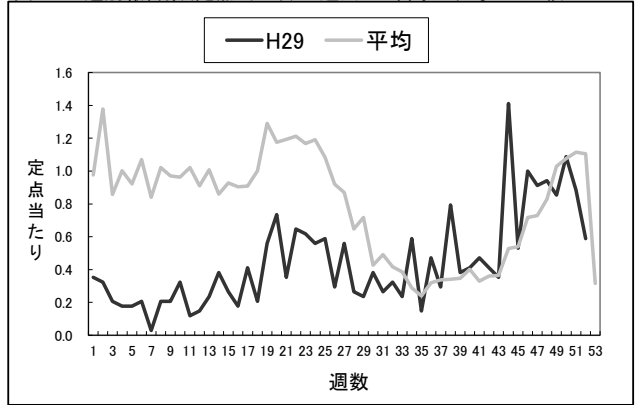


図 6-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

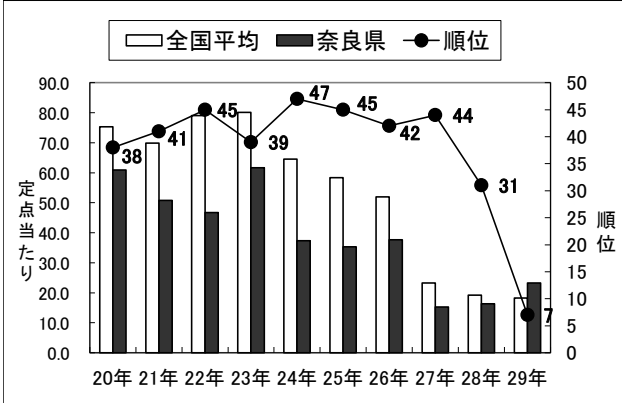


図 6-6 年齢別報告数(実数)

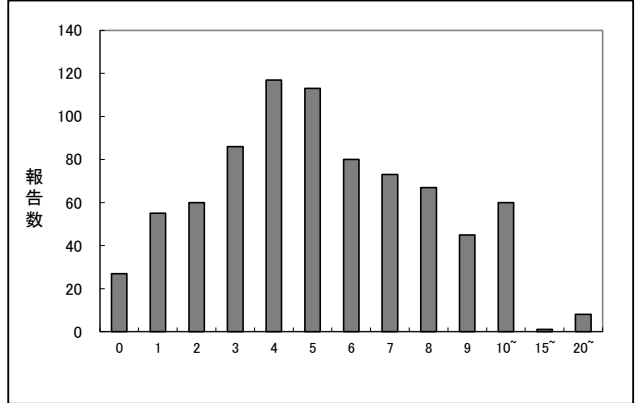


図 6-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

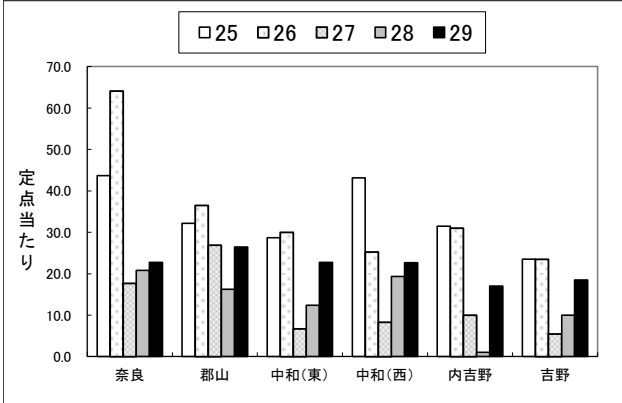
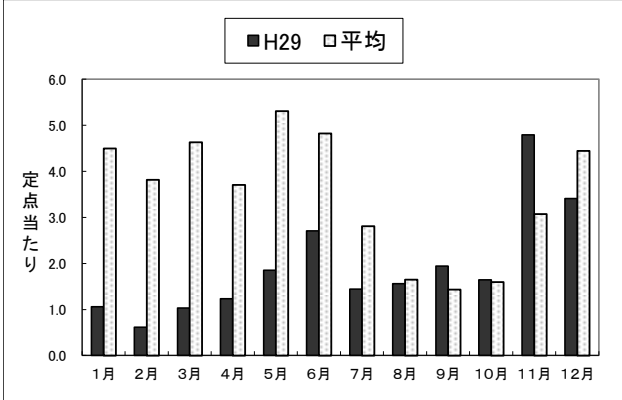


図 6-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年度における全報告数は792例、定点当たり報告数は23.29(全国平均19.04)で前年より増加した。

過去10年間の定点当たり報告数は、平成26年10月の水痘ワクチン定期接種開始以降全国的に急減している。奈良県はワクチン定期接種前から全国平均を下回っており順位もほぼ40位台であったが、その後漸増、平成28年には31位、平成29年には7位となり全国平均を上回った。

保健所別の定点当たり報告数はいずれも前年より増加、郡山保健所が26.44で最多、以下奈良市保健所22.78、中和保健所(東)22.71、中和保健所(西)22.67、吉野保健所18.50、内吉野保健所17.00で、奈良市保健所と中和保健所(西)の微増以外は、大幅に前年を上回った。

月別の定点当たり報告数では、1月から7月までは例年の報告数(2.8~5.3)の1/4~1/2(0.62~2.71)であるが、8月以降はほぼ例年通り、11月の報告数(4.79)は例年(3.0)を大きく上回った。週別で見ると、第1週~25週までの減少は著しいが、34週以降は再びピークを伴い例年を上回っている。

年齢別での実報告数をみると、4歳、5歳をピークとするほぼ峰性の分布で4歳(117例)、5歳(113例)で29%を占めているが、この年齢層はワクチン定期接種開始直前に当たる。今後はワクチン接種の徹底により全体数も減少しピークはなだらかになると考えられる。

奈良県では、ワクチンの定期接種開始直後に全国平均と同様定点当たり報告数が1/2以下に減少したが、その後漸増し、平成29年は全国平均を上回った。ワクチン定期接種の周知・徹底が望まれる。

(水野 文子 記)

7.手足口病

図 7-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

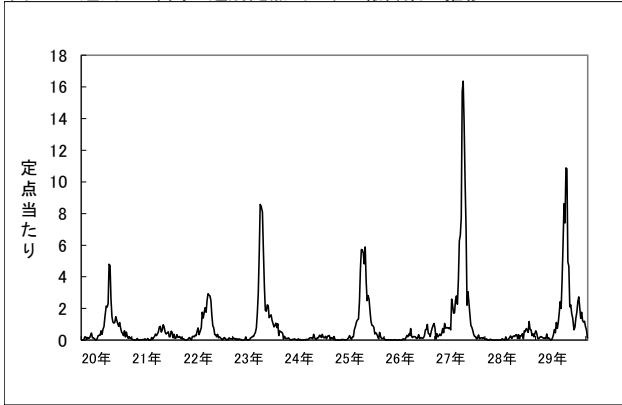


図 7-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

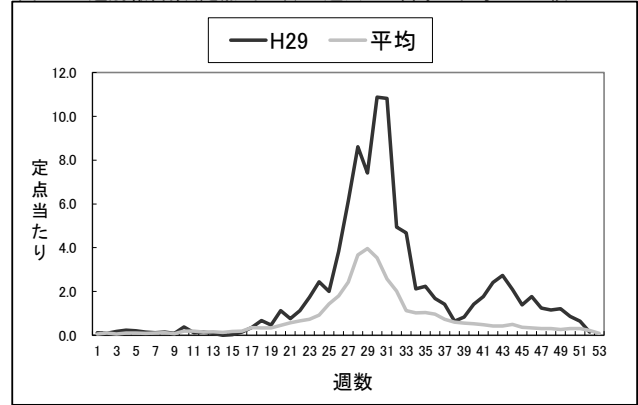


図 7-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

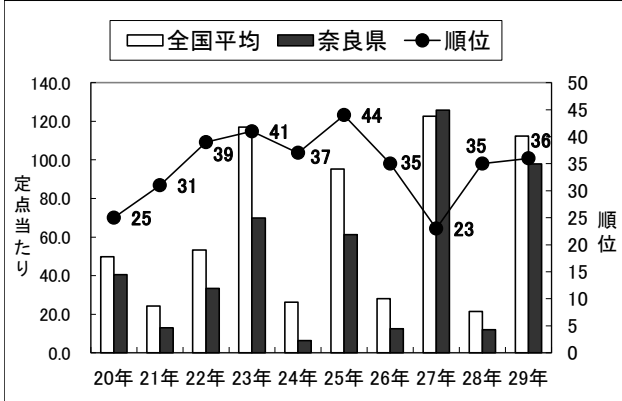


図 7-6 年齢別報告数(実数)

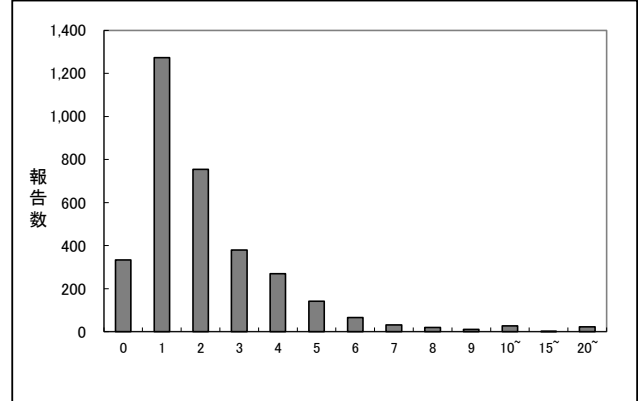


図 7-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

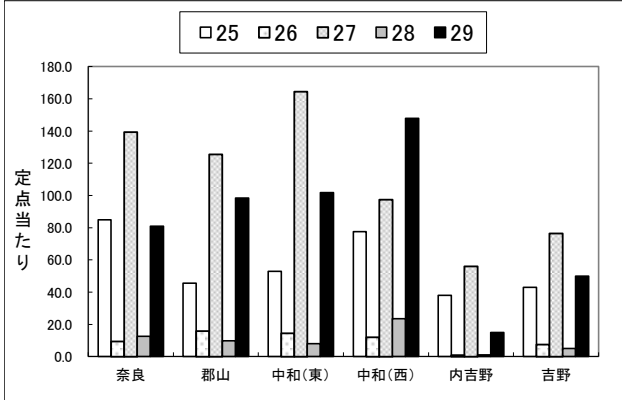
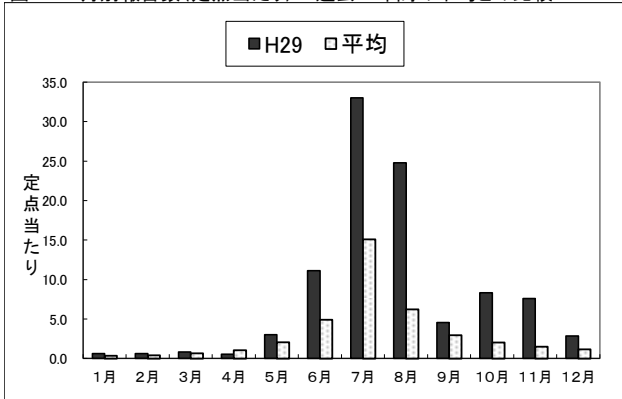


図 7-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年における全報告数は3,329例、定点当たりの報告数は97.91(全国平均:112.34)で、昨年と比較すると激増したものの全国平均よりは下回っていた。過去10年間の定点当たりの報告数をみると、流行周期をほぼ2年間隔で認めており、平成27年の125.71につぐ多さだった。都道府県別に定点当たりの報告数をみると、平成28年とほぼ変わらず全国順位36位だった。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、例年と同様で北中部保健所からの報告数が多く、中和(西)保健所が147.83と最多で、中和(東)保健所、郡山保健所、が、順に101.71、98.44とほぼ同程度、次いで奈良市保健所:81.00、吉野保健所:50.00と続き、内吉野保健所が15.00で例年通り最少だった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数をみると、例年は7月をピーク(平成29年は第30~31週にピークに達し、定点当たりの報告数は10.88で過去10年間平均のほぼ3~4倍)とした6月~8月に集中する一峰性分布をなしているが、平成29年においては、再度第40週頃から増加し第43週に再びピークを形成し、10~11月にかけての二峰性分布になっていた。

年齢別での実報告数をみると、0歳(334例)、1歳(1273例)、2歳(754例)3歳(380例)にほぼ集中しており、この年代で全報告数の80%強を占めていた。また、6歳までの小学校就学前の年代で、全体のほぼ95%(3152例)を占めており、例年通りの年齢分布であった。

手足口病の原因ウイルスとして、平成23年以降2年おきにコクサッキーウイルスA群6型の流行が繰り返されており、平成29年も同様なサイクルで、全国的に流行が認められた。同ウイルスの検出は流行期の6~8月に集中しており、非流行期にはエンテロウイルス71型が検出された。

(村井 孝行 記)

8.伝染性紅斑

図 8-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

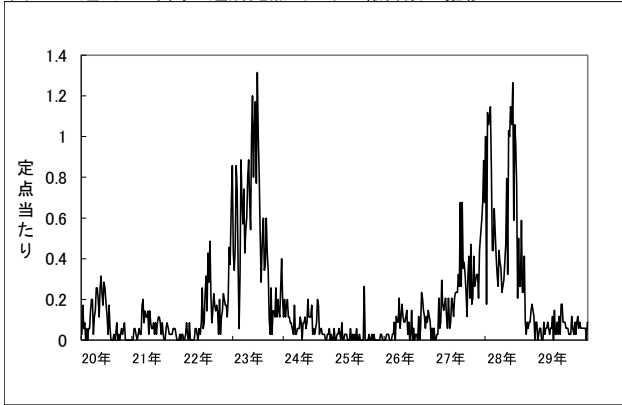


図 8-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

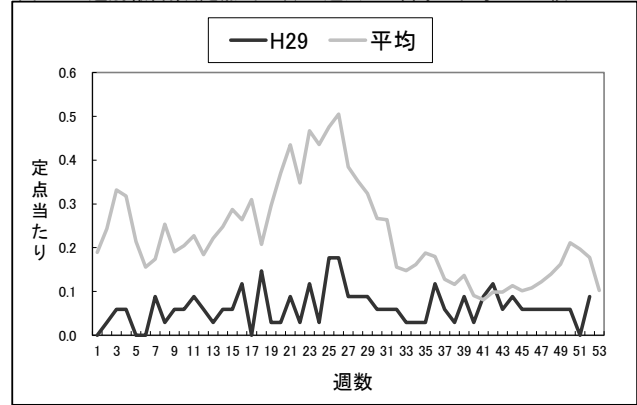


図 8-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

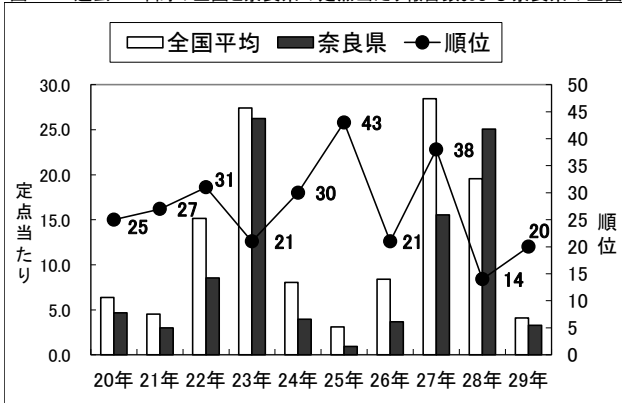


図 8-6 年齢別報告数(実数)

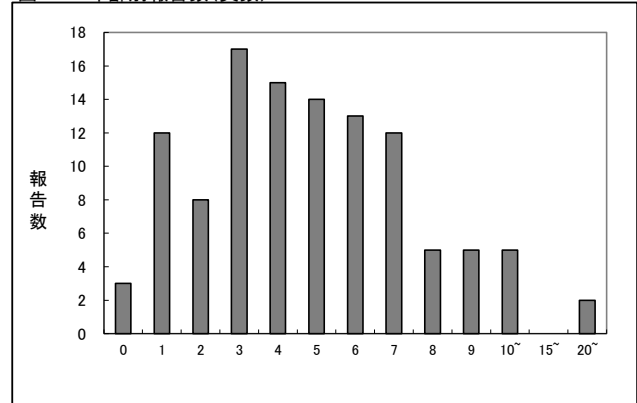


図 8-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

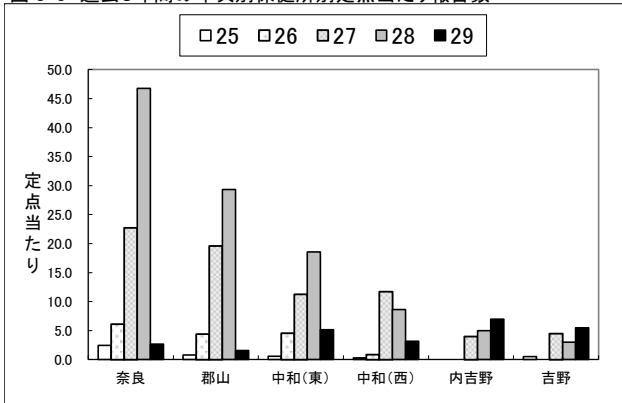
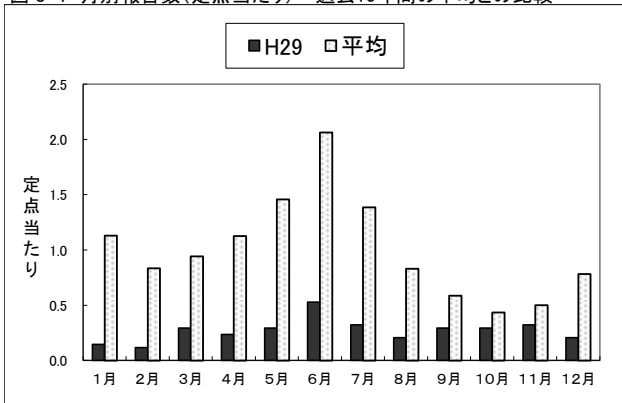


図 8-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年における全報告数は111例、定点当たりの報告数は3.26(全国平均:4.09)だった。過去10年間の定点当たりの報告数をみると、ほぼ3~4年間隔の流行周期を認め、例年1.00~5.00の間を推移し(平成23年:26.26、平成27年:15.56、平成28年:25.06を除く)、平成29年は、例年通り3.26であった。都道府県別に定点当たりの報告数をみると、奈良県の全国順位は、平成28年度の14位について20位となった。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、例年の傾向とは異なり、南部>中部>北部の順に多くなり、内吉野保健所:7.00、吉野保健所:5.50と最多となり、次いで中和保健所(東):5.14、中和保健所(西):3.17の順に多かった。一方、奈良市保健所:2.67、郡山保健所:1.56で、奈良県全体で最少となった。この様に平成29年は、過去5年間になかった傾向が認められた。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数をみると、6月頃(第25~26週)をピークとする分布には変わりがなかったが、平成29年は、冬期における報告数の減少が比較的に目立ち、特に1~2月(第1~8週)における平均報告数が、過去10年間平均報告数のほぼ1/8~1/10にまで減少していた。

年齢別での実報告数をみると、平成29年は3~7歳に広くピークを形成しており、この年代において、全報告数のほぼ60%強(71例)を占めていた。また、0~2歳の年代で全報告数の23例(20.7%)、8歳以降(成人を除く)の年代においても15例(13.5%)報告されていた。

伝染性紅斑は、主にヒトパルボウイルスB19(HPV-B19)による感染症で、また、HPV-B19は、赤芽球前駆細胞(赤血球の前段階)に感染し破壊することがあり、妊婦が初感染で胎児までに感染がおよんだ場合、胎児の赤血球は減少し重症胎児貧血による胎児水腫が原因で死産に至る。さらに、流産、子宮内胎児発育遅延の原因にもなる。

(村井 孝行 記)

9.突発性発しん

図 9-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

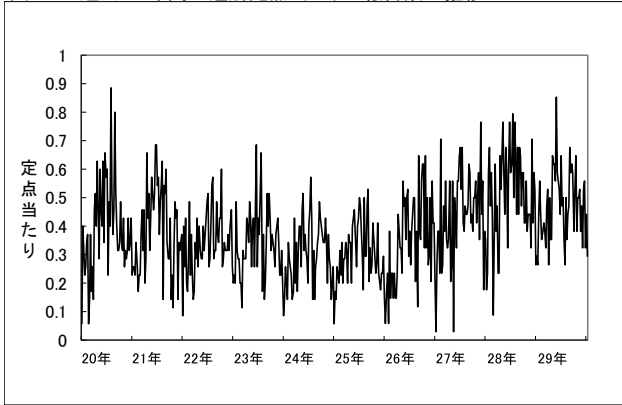


図 9-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

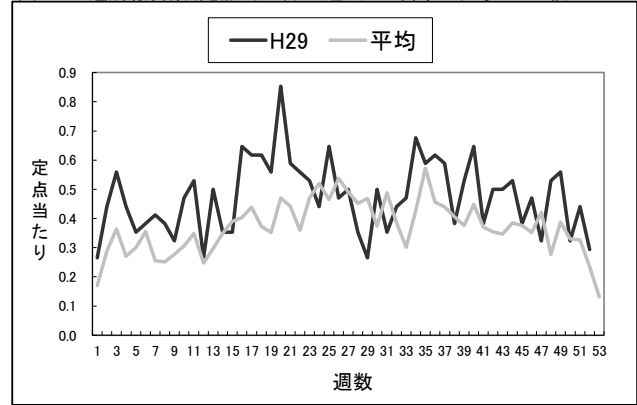


図 9-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

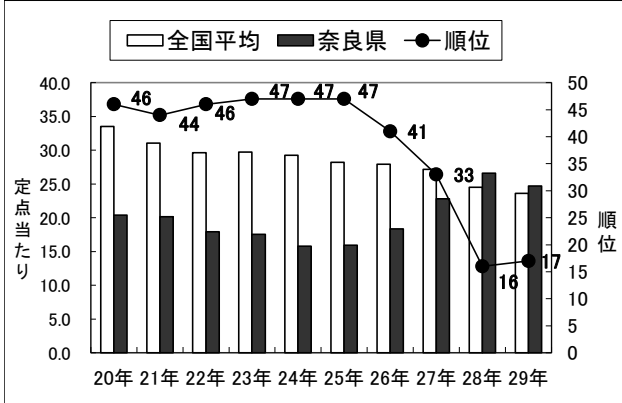


図 9-6 年齢別報告数(実数)

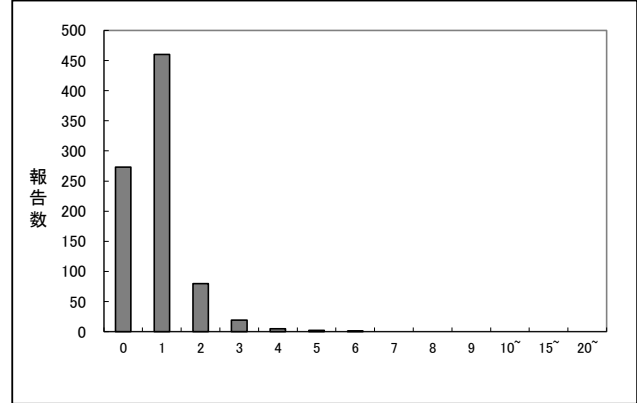


図 9-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

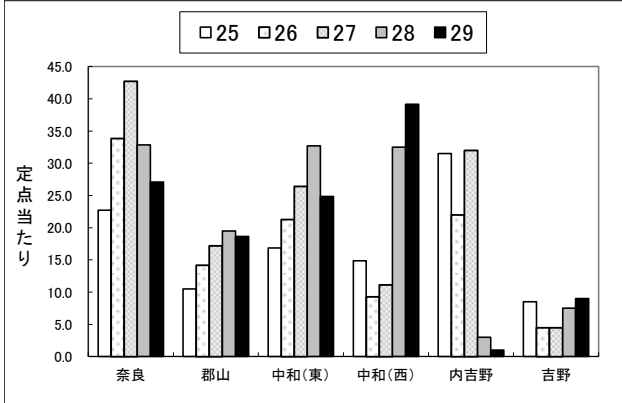
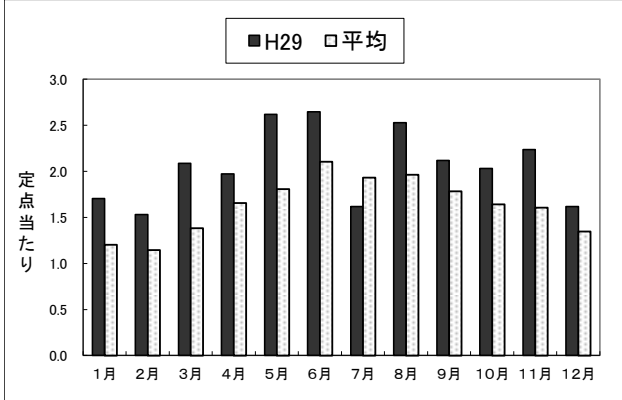


図 9-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年における全報告数は840例、定点当たりの報告数は24.71(全国平均;23.64)で、2年連続で全国平均を上回っていた。過去10年間の定点当たりの報告数をみても、全国的に平成20年以降は、なだらかに減少傾向が認められているのに対して、奈良県においてはここ3年間は連続増加傾向であった。このため、道府県別に定点当たりの報告数をみても、平成28年とほぼ変わらず全国順位17位だった。

保健所別に定点当たりの報告数をみると、平成28年から中和保健所(西)の増加が続いており、39.17と最多で突出していた。ついで、奈良市保健所;27.11、中和保健所(東);24.86とほぼ同数で、郡山保健所;18.67と続いていた。また、平成28年より内吉野保健所からの報告数が激減しており、吉野保健所;9.00で内吉野保健所が1.00と2年続けて最少だった。

月別・週別に定点当たりの過去10年間の平均報告数をみると、ほぼ例年通り梅雨時期の6月から夏場～初秋にかけての7～9月をピークとしたほぼ一峰性に近い分布であったが、平成29年においては、やや前倒しに第16週頃からの平均報告数が増加し始め(約1.5倍)、5月における平均報告数が特に目立ち、逆に第26～29週頃にかけての平均報告数が減少し、7月における平均報告数が減少していた。

年齢別での実数報告数をみると、0歳(273例)と1歳(460例)でほぼ全報告数の90%弱を占めており、2歳で80例の報告はあるものの以降の年代では、ほぼ散発な報告だった。

突発性発しんは、主にヒトヘルペスウイルス6、7(HHV-6、HHV-7)やエンテロウイルスを原因ウイルスとする感染症で、母体からの移行HHV-7抗体は、HHV-6抗体よりも長期間持続するといわれている。HHV-6による突発性発しんに遅れてHHV-7による2度目の突発性発しんとして臨床経験されることがあり、このことが起因するのではないかと報告もある。

(村井 孝行 記)

10.百日咳

図 10-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

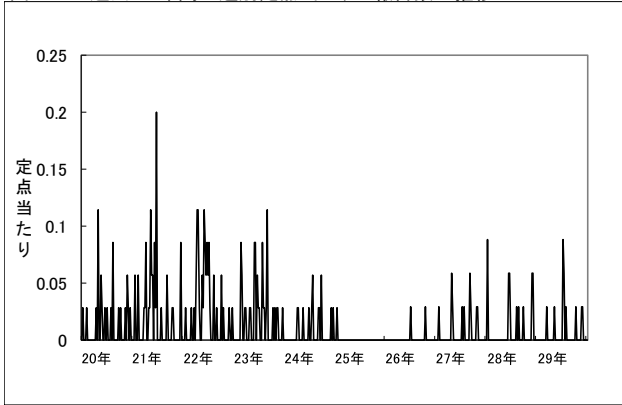


図 10-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

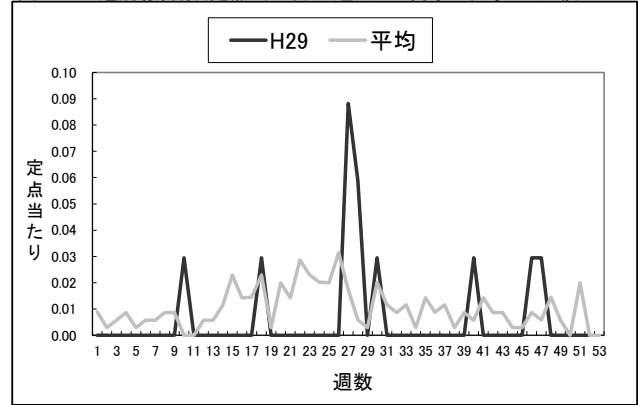


図 10-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

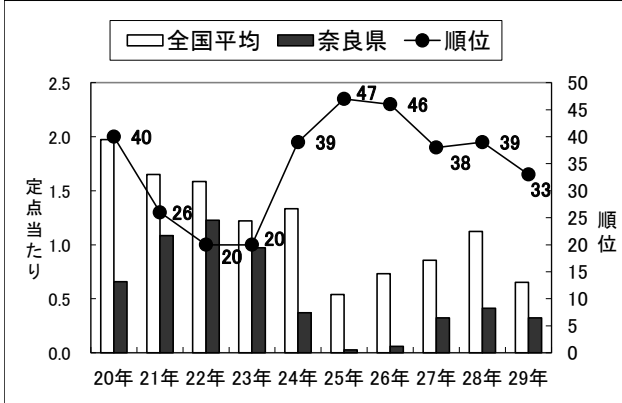


図 10-6 年齢別報告数(実数)

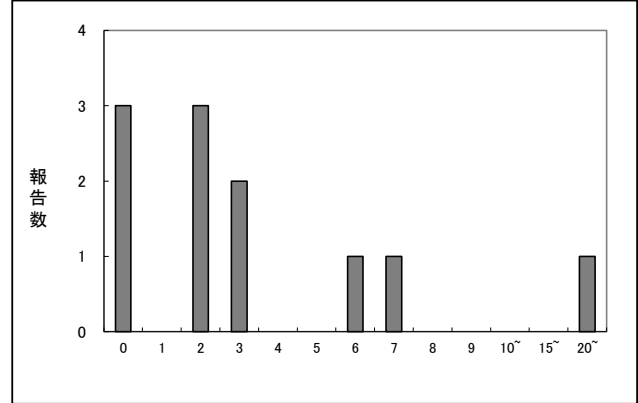


図 10-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

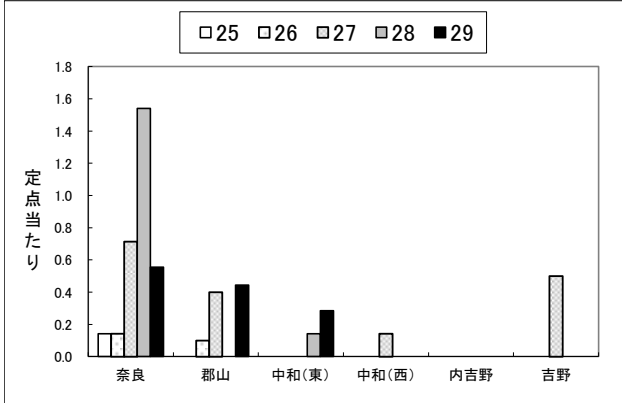
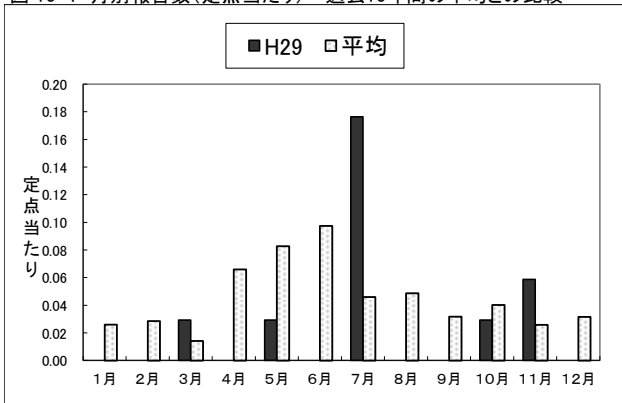


図 10-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H29の奈良県の報告数は11人(定点当たり0.32)であった。

【図10-1】過去10年間での最大の週は、H21の第26週(0.20)(7人)であった。直近の過去5年間での最大の週は、H28第1週及びH29第27週の(0.09)(3人)であった。

【図10-2】奈良県は、H25、全国最下位(47位)であった。H29は奈良県(0.32)(33位)と順位は上げたが、定点当たり報告数は全国平均(0.65)を下回っていた(10年連続)。

【図10-3】H29は①奈良(0.56)、②郡山(0.44)、③中和(東)(0.29)の順であった。他はすべて0.00であった。また、同一保健所管内での過去5年間の推移では、奈良がH28は最多(1.54)であったが、H29は減少となった。内吉野は5年連続0.00であった。

【図10-4】最多の月は、10年平均が6月(0.10)で、H29は7月(0.18)であった。

【図10-5】最多の週は、10年平均が第22、26週(0.03)で、H29が第27週(0.09)(3人)であった。

【図10-6】最多は0歳、2歳の3人であった。20~の年齢階級別報告数は20-29歳(1人)であった。

(柳生 善彦 記)

11.ヘルパンギーナ

図 11-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

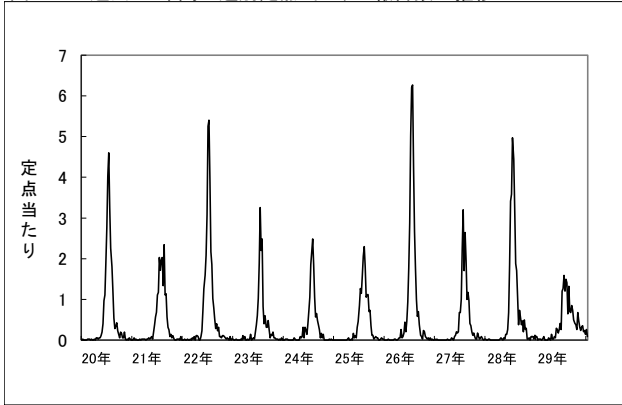


図 11-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

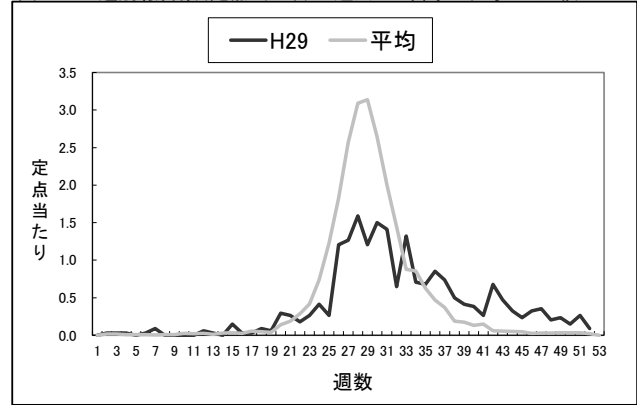


図 11-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

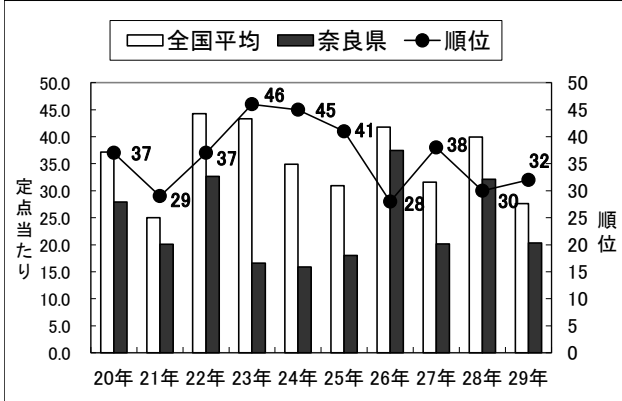


図 11-6 年齢別報告数(実数)

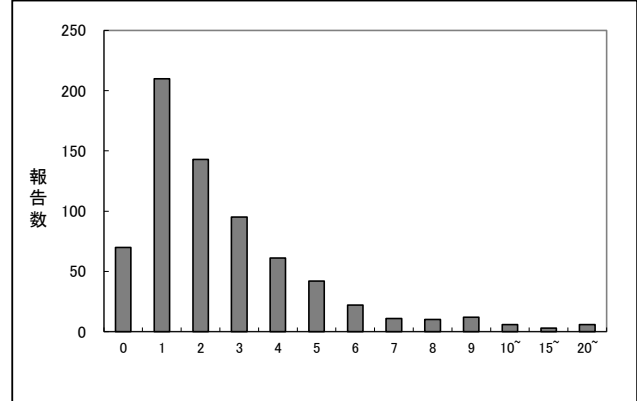


図 11-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

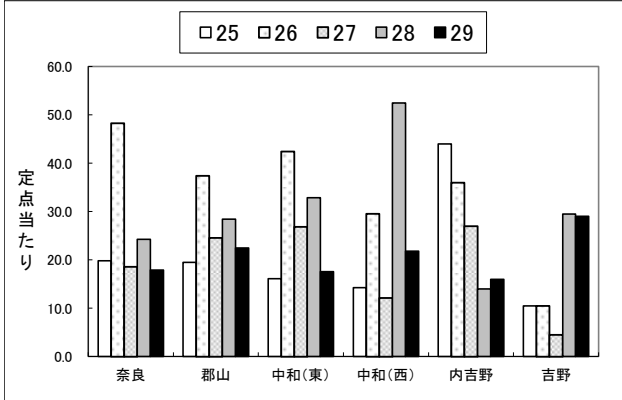
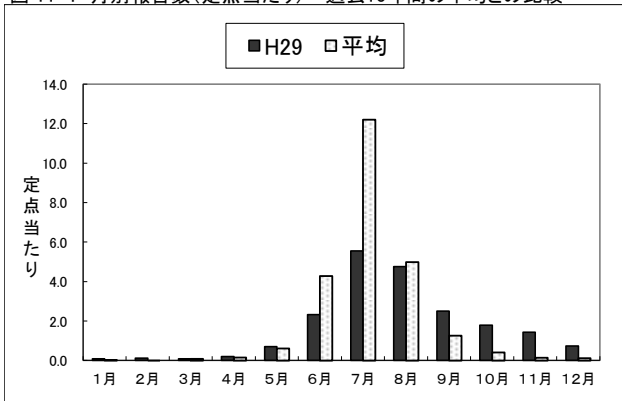


図 11-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H29の奈良県の報告数は691人(定点当たり20.32)であった。

【図11-1】過去10年間での最多の週は、H26の第29週(6.24)(213人)であった。H29では第28週(1.59)(54人)で、最も低いピークの年となった。

【図11-2】奈良県は、H23、全国第46位であった。H29は奈良県(20.32)(32位)と順位は上げたが、定点当たり報告数は全国平均(27.65)を下回っていた(10年連続)。

【図11-3】H29は①吉野(29.00)、②郡山(22.44)、③中和(西)(21.83)、④奈良(17.89)、⑤中和(東)(17.57)、⑥内吉野(16.00)の順であった。また、同一保健所管内での推移では、中和(東)、中和(西)でH28からH29にかけて半減し、一方、吉野はH28(29.50)とH29が同水準での推移となった。

【図11-4】最多の月は、10年平均が7月(12.21)で、H29も7月(5.56)であった。

【図11-5】最多の週は、10年平均が第29週(3.14)で、H29が第28週(1.59)(54人)であった。

【図11-6】0歳が70人。1歳が210人で最多であった。以下、8歳(10人)まで年齢が高くなると共に漸減傾向であった。9歳は12人。また、年齢階級別報告数は10-14歳(6人)、15-19歳(3人)、20-29歳(6人)であった。

なお、H29(2017年)は14例の依頼があり、7種類のウイルスが検出されたが、いずれも散発で原因ウイルスの特定に至らなかった。
(柳生 善彦 記)

12.流行性耳下腺炎

図 12-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

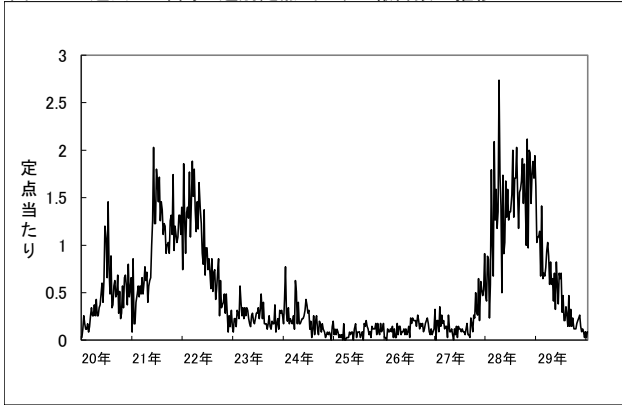


図 12-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

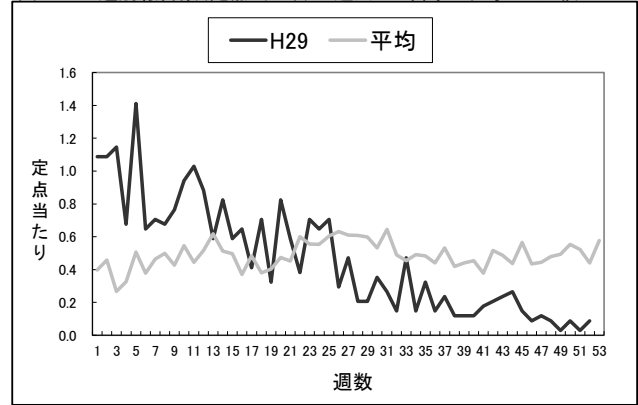


図 12-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

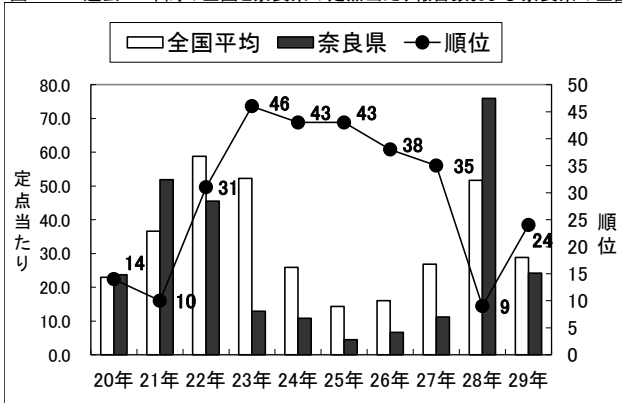


図 12-6 年齢別報告数(実数)

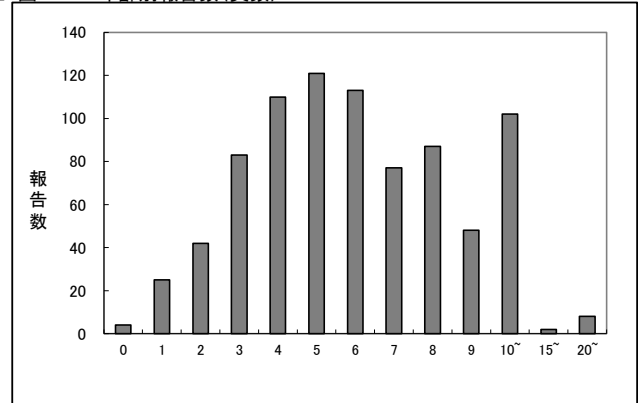


図 12-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

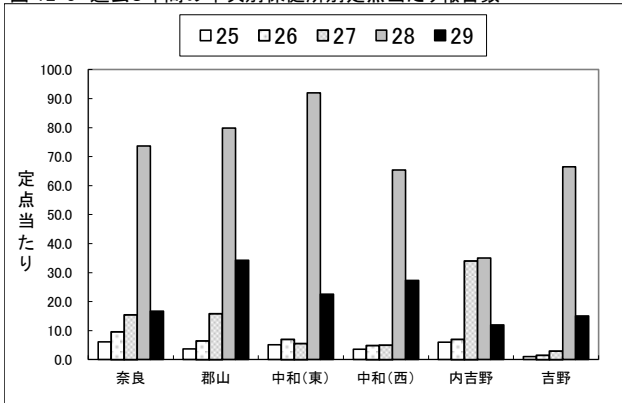
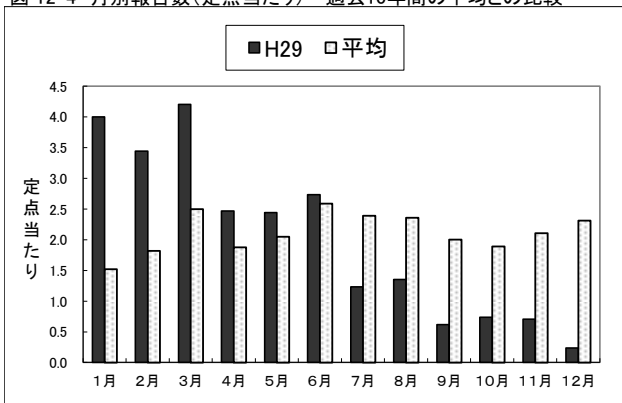


図 12-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

H29の奈良県の報告数は822人(定点当たり24.18)であった。

【図12-1】過去10年間での最大の週は、H28の第13週(2.74)(93人)であった。

【図12-2】H29は奈良県(24.18)(24位)で、定点当たり報告数で全国平均(28.85)を下回っていた。ちなみに、過去10年間で奈良県が上回っていたのは、H20(奈良県23.71,全国平均23.00)、H21(51.91,36.57)、H28(76.00,51.71)の3回であった。

【図12-3】H29は①郡山(34.22)、②中和(西)(27.33)、③中和(東)(22.57)、④奈良(16.67)、⑤吉野(15.00)、⑥内吉野(12.00)の順であった。また、同一保健所管内での過去5年間の推移では、6保健所管内ともH28が最多で、その次は内吉野保健所ではH27、その他5保健所ではH29であった。

【図12-4】最多の月は、10年平均が6月(2.59)で、H29は3月(4.21)であった。

【図12-5】10年平均では1年を通してほぼ一定水準の推移であるのに対して、H29は年初に多く、年末へ向けて漸減となった。最大の週は、10年平均が第31週(0.64)で、H29が第5週(1.41)(48人)であった。一方、最少の週は、10年平均が第3週(0.27)で、H29が第49、51週の(0.03)(1人)であった。

【図12-6】0歳(4人)から最多の5歳(121人)までは漸増、5歳から9歳(48人)まではほぼ漸減であった。また、年齢階級別報告数は10-14歳(102人)、15-19歳(2人)、20-29歳(8人)であった。

(柳生 善彦 記)

眼科定点分

13.急性出血性結膜炎

図 13-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

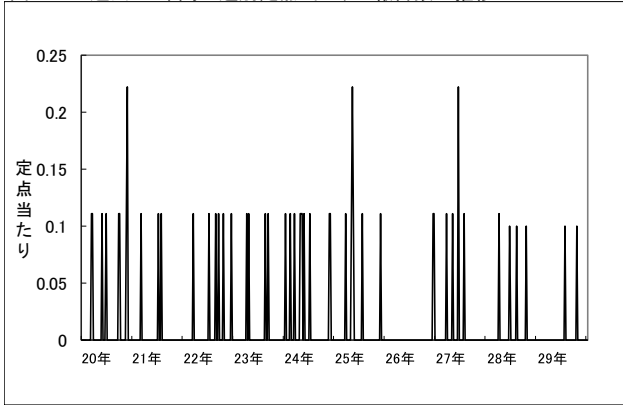


図 13-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

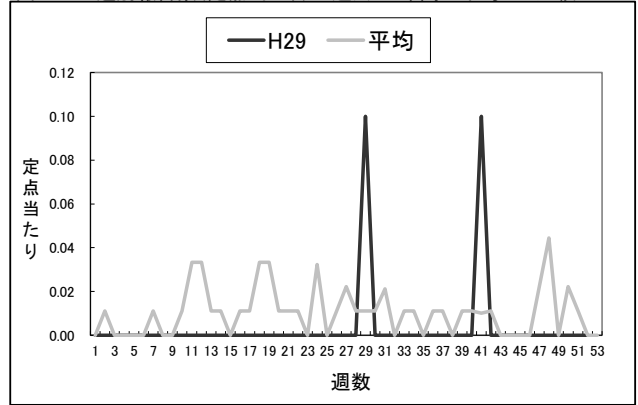


図 13-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

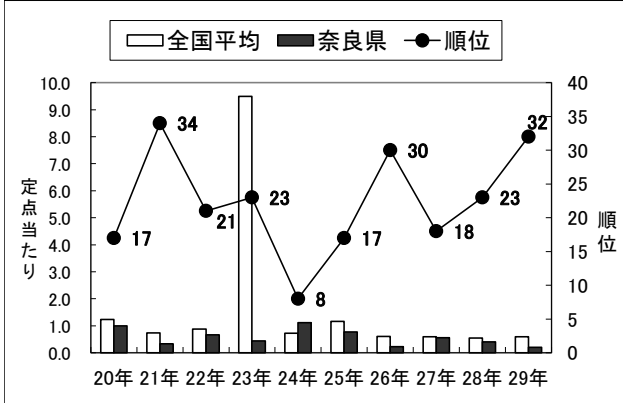


図 13-6 年齢別報告数(実数)

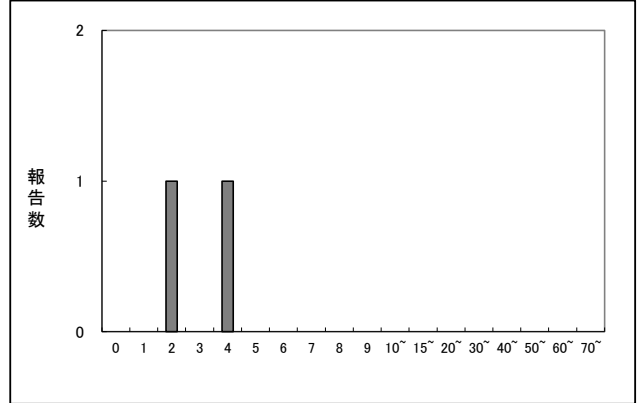


図 13-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

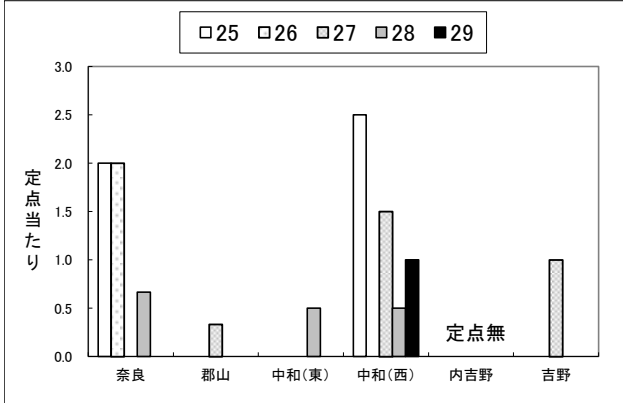
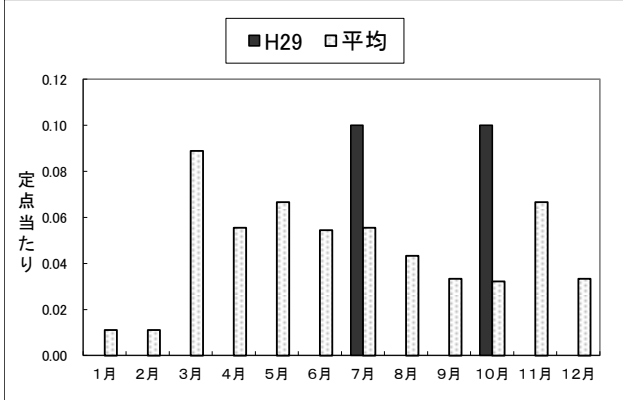


図 13-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

県内定点全体では2例の報告があり、29,41週に各1例報告された。共に中和西で、2歳と4歳であった。全国順位は32位で定点あたりの報告数は全国平均0.6より少ない0.2であった。

(平井 宏明 記)

14.流行性角結膜炎

図 14-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

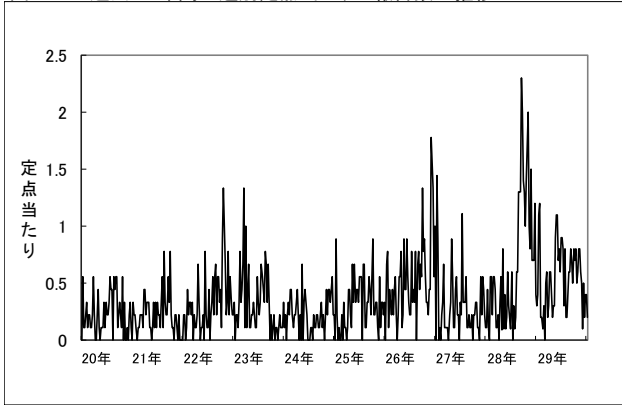


図 14-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

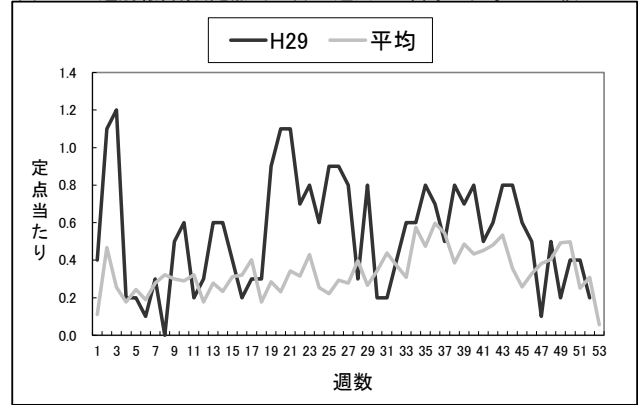


図 14-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

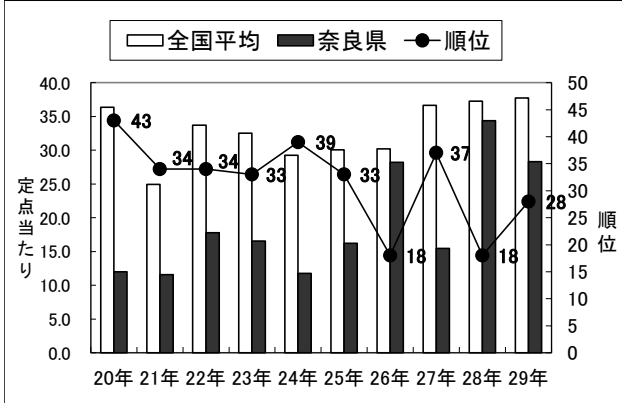


図 14-6 年齢別報告数(実数)

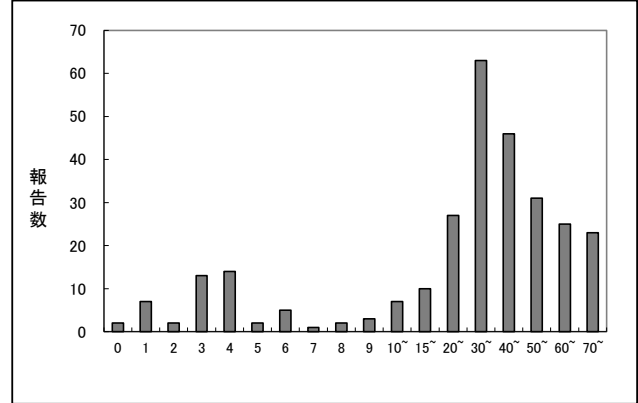
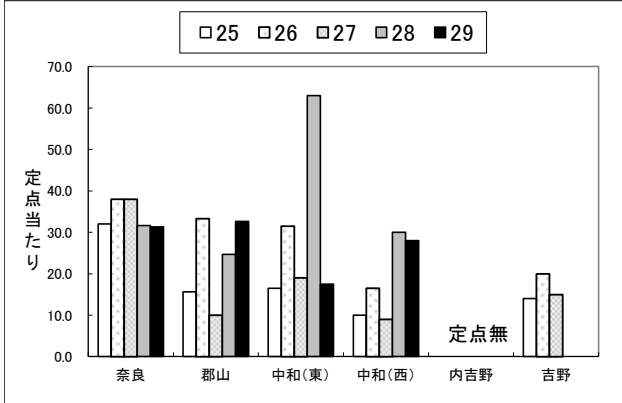


図 14-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

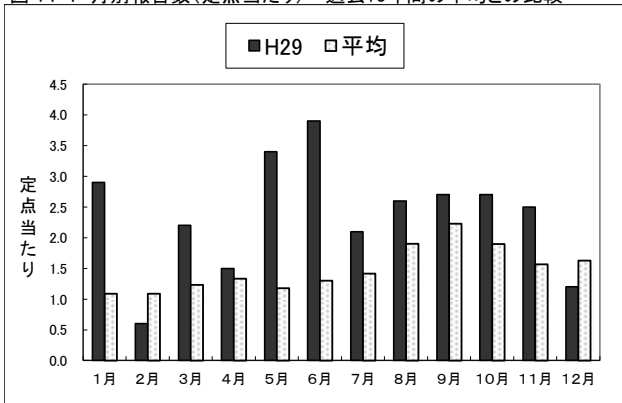


コメント

県内定点全体では283例の報告があった。前年の339例より減少し、定点当たりの報告数は、全国と比較すると、全国平均37.7より少ない28.3となった。順位も28位と昨年の18位より下がった。時期的には、2、3週に一峰性のピークをつけたあと、19週から29週にかけてと33週から46週にかけての時期に多く見られた。定点あたりでは、奈良、郡山次いで中和西、中和東と続き、一方、吉野では報告がなかった。年齢的には、3、4歳の山(9.5%)と30歳代(22.3%)40歳代(16.2%)をピークとする20歳から70歳の山が特徴的であった。幼児からその両親、祖父母へと広がった可能性が示唆された。

(平井 宏明 記)

図 14-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



15.細菌性髄膜炎

図 15-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

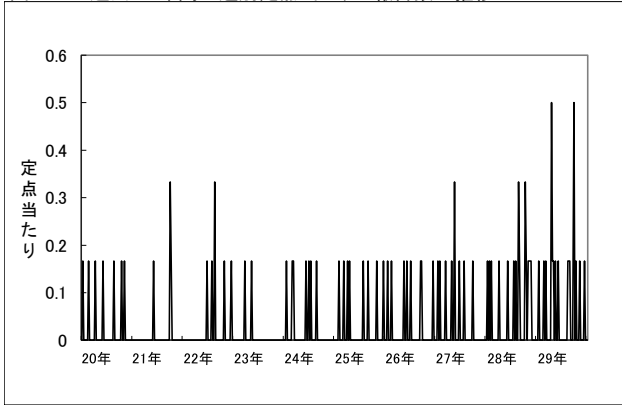


図 15-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

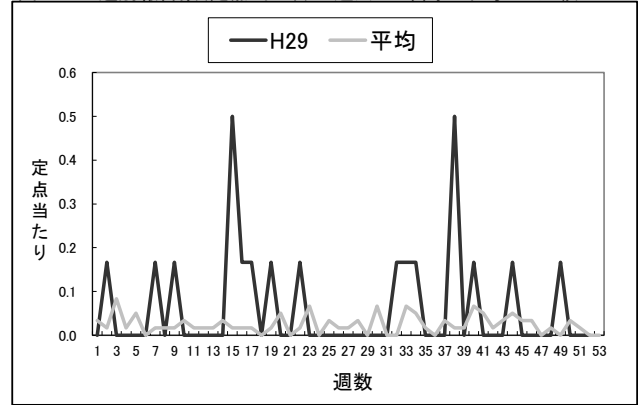


図 15-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

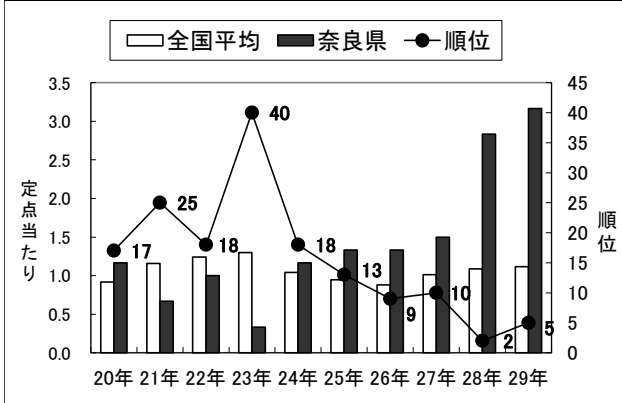


図 15-6 年齢別報告数(実数)

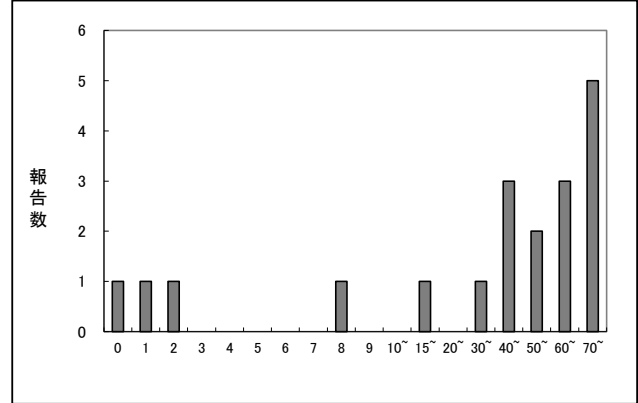


図 15-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

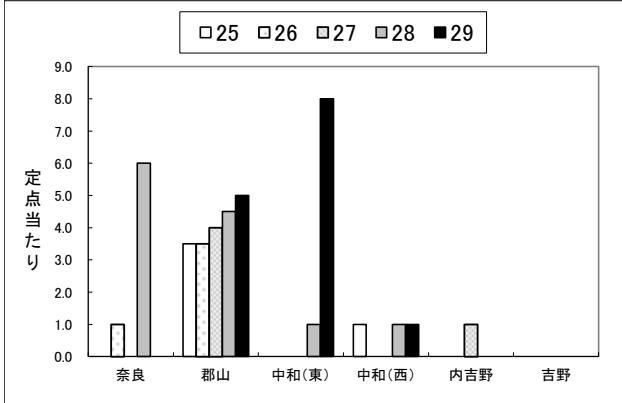
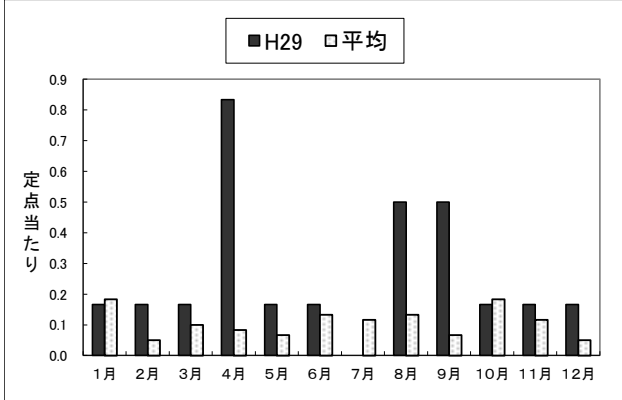


図 15-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年の全報告数は19例で、定点あたりの報告数は3.1であった。奈良県はこれまでも報告数の多い県であったが、28年はこれまでも最も報告数が多く、全国順位も2位となっており、29年も全国順位5位と高いところでとどまっている。季節的な差ははっきりとはみられなかった。かつて本邦における細菌性髄膜炎は5歳未満の報告が多く、全体の約半数を占めていたが、近年の奈良県では5歳未満の報告は少なく、Hibワクチン、肺炎球菌ワクチンの普及によると考えられる。一方で、成人、特に高齢者の細菌性髄膜炎の頻度が高い。高齢者のワクチン接種状況や他県との接種率の差は不明だが、最も頻度の高い肺炎球菌へのワクチン接種の実施率上昇の余地が残されているのかもしれない。

(矢野 寿一 記)

基幹定点分(週報)

16.無菌性髄膜炎

図 16-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

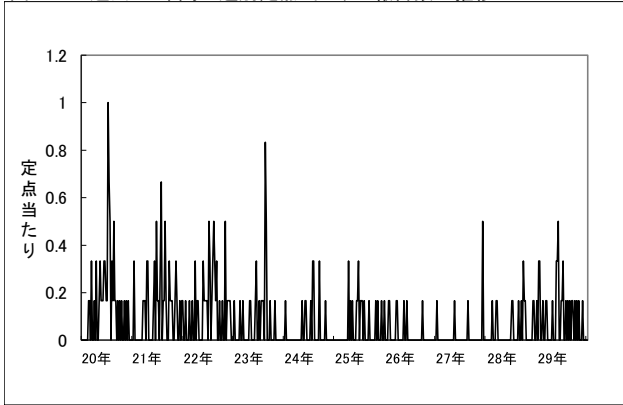


図 16-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

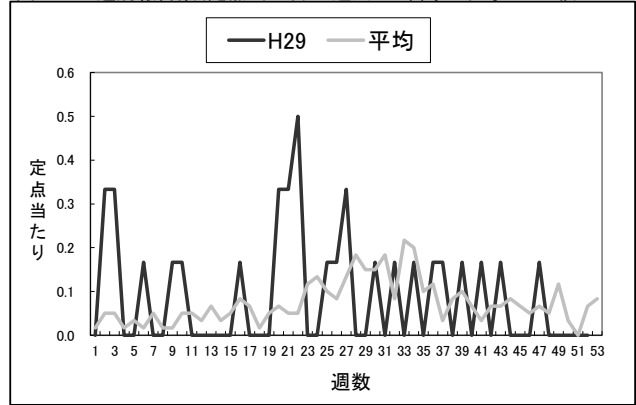


図 16-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

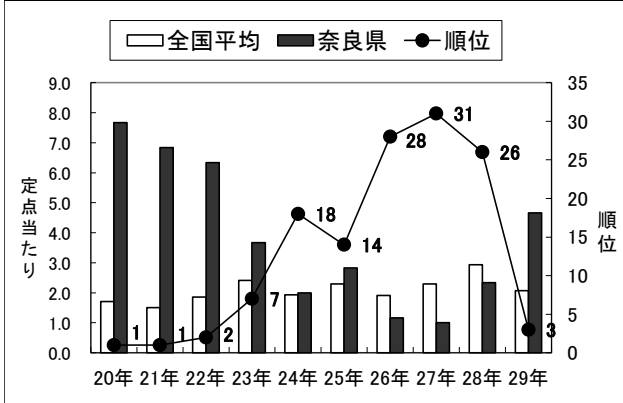


図 16-6 年齢別報告数(実数)

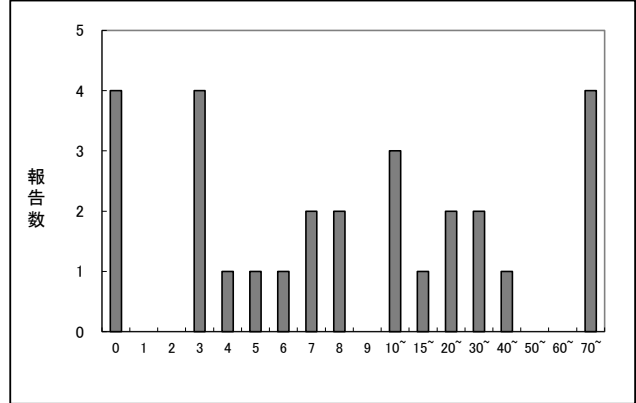


図 16-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

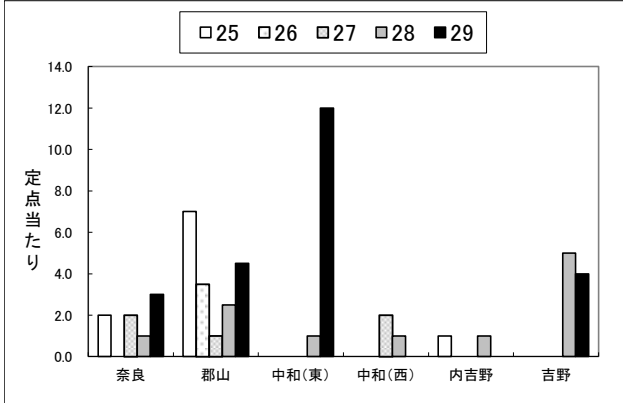
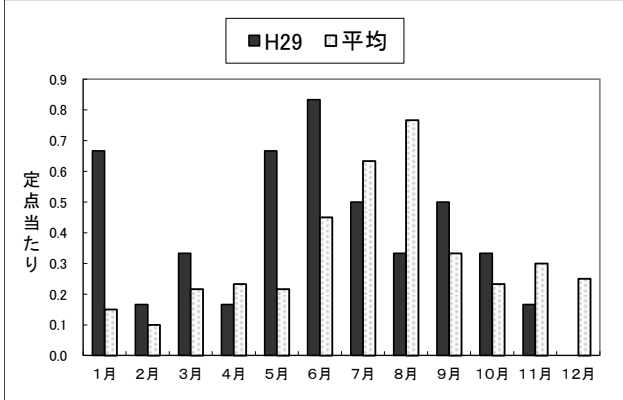


図 16-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年の全報告数は28例、定点あたりの報告数は4.7で、28年と比較しほぼ倍増であり、全国順位も3位と大きく上がってしまった。夏季に報告数が多いことから、奈良県で夏季に流行した手足口病との関連が推測される。昨年コメントで、29年の無菌性髄膜炎の増加を予想し、その懸念が現実となったが、細菌性髄膜炎と合わせて考えると、定点施設の中枢神経系感染症の診療レベルが上がっているとも考えられる。

(矢野 寿一 記)

17.マイコプラズマ肺炎

図 17-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

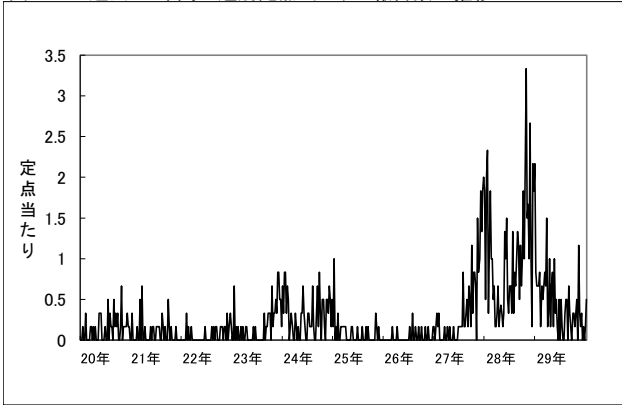


図 17-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

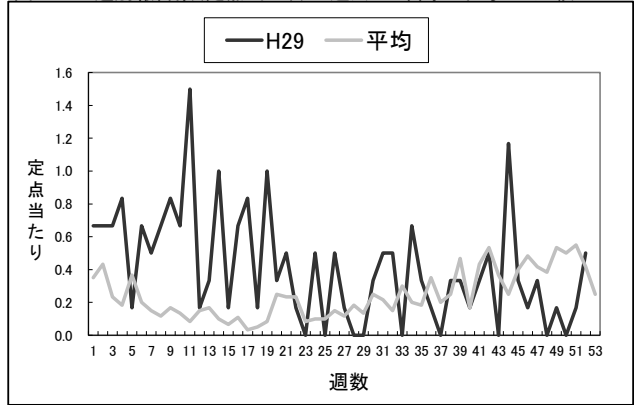


図 17-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

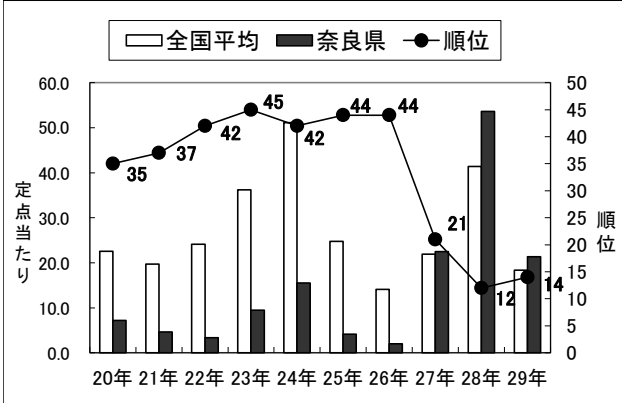


図 17-6 年齢別報告数(実数)

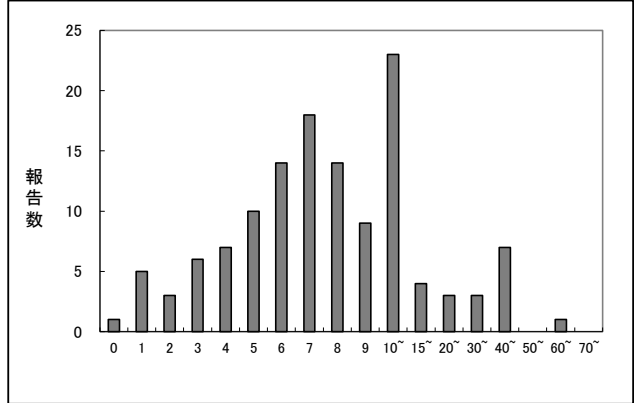


図 17-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

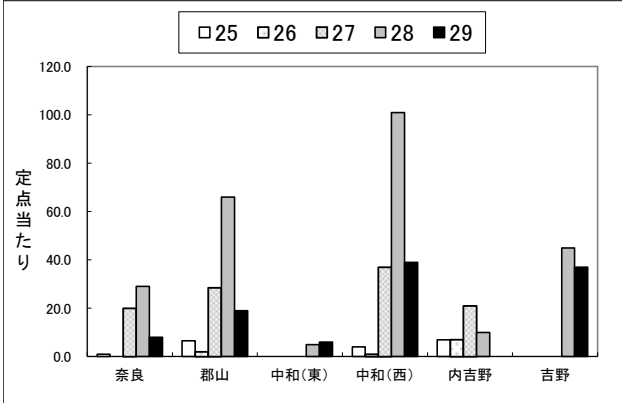
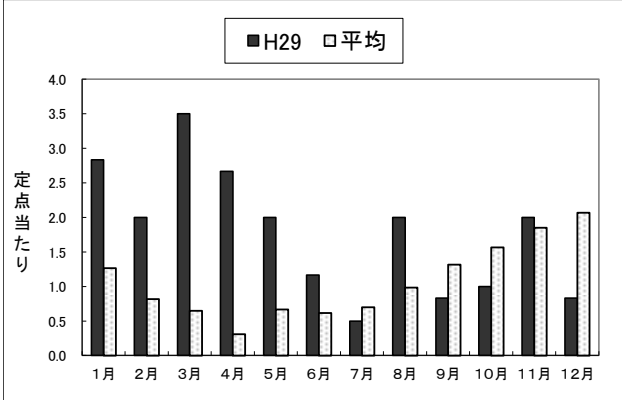


図 17-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年における全報告数は128例、定点あたりの報告数は21.3で、平成28年における全報告数、定点あたりの報告数と比較すると大きく減少した。しかし、これは全国的な傾向のようで、全国順位も14位と、28年の12位と大きな変化はなかった。28年は全国的にマイコプラズマ肺炎が大流行した年であったことによるものと思われる。

(矢野 寿一 記)

18.クラミジア肺炎

図 18-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

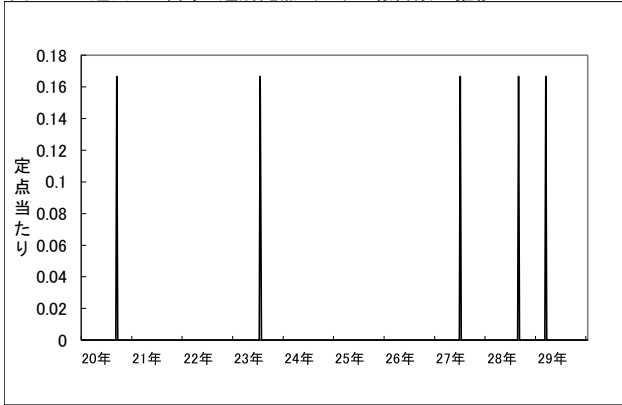


図 18-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

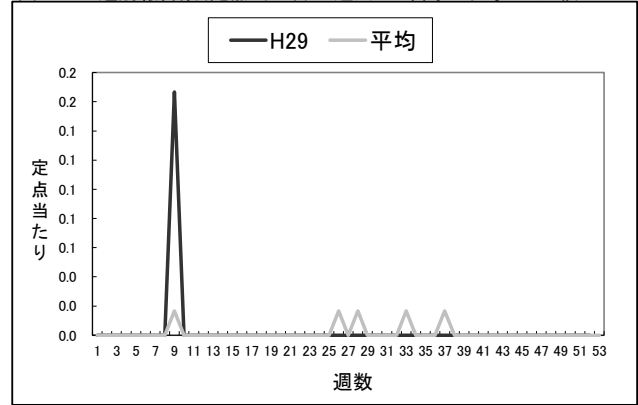


図 18-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

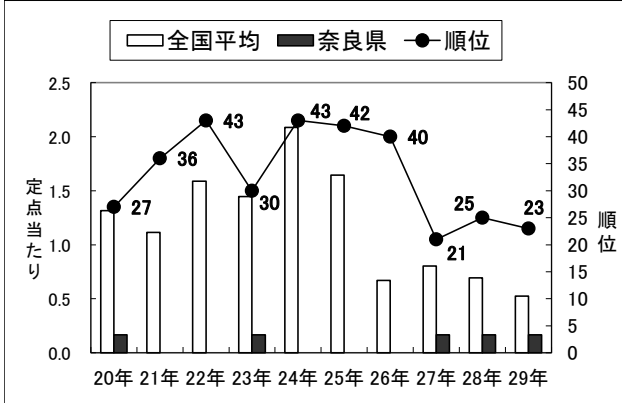


図 18-6 年齢別報告数(実数)

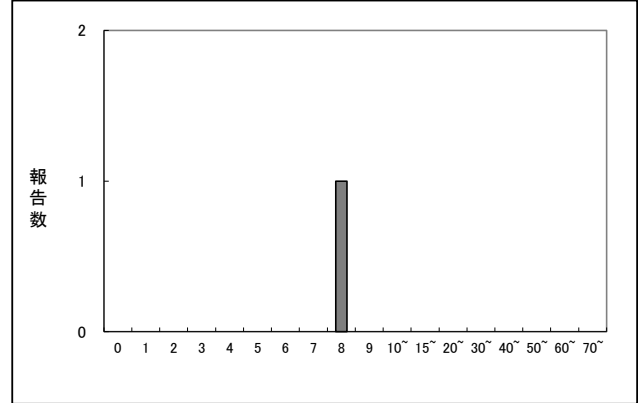
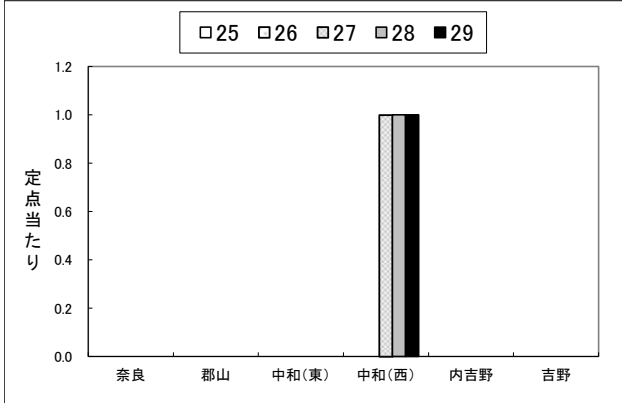


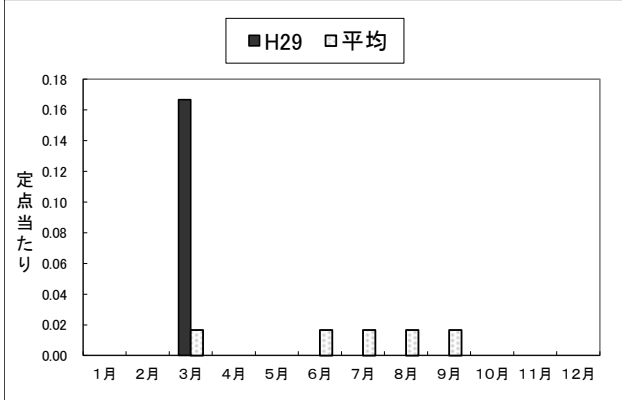
図 18-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

平成24～26年は クラミジア肺炎の報告はみられなかったが、27年から29年にかけて1例ずつの報告があった。しかし、これまで通り低値で推移していることには変わりないようである。
(矢野 寿一 記)

図 18-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



19. 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

図 19-1 過去10年間の週別定点当たりの報告数の推移

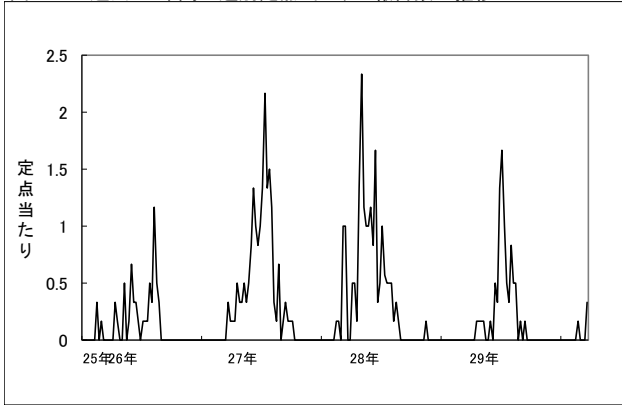


図 19-5 週別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

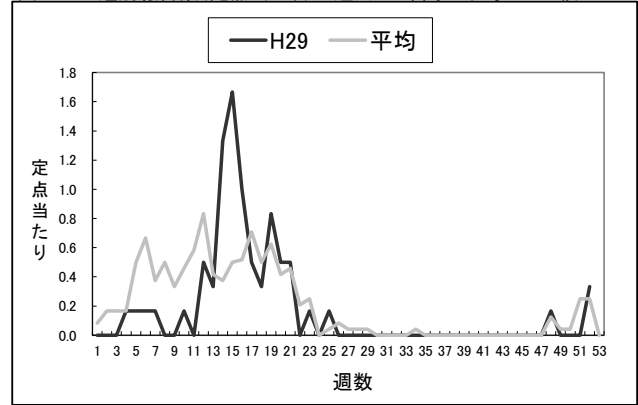


図 19-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数および奈良県の全国順位

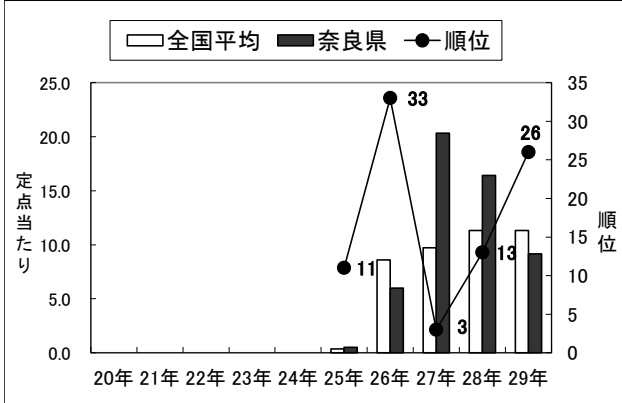


図 19-6 年齢別報告数(実数)

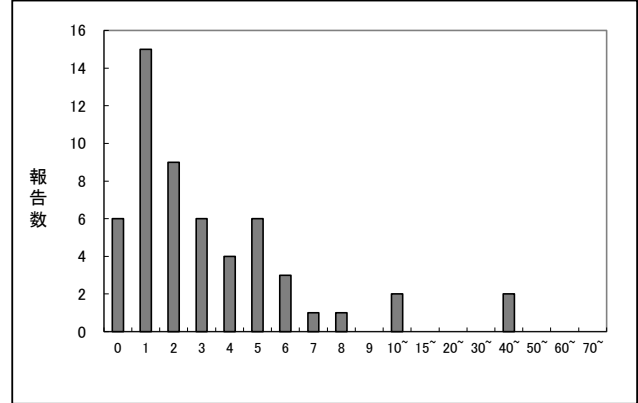


図 19-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

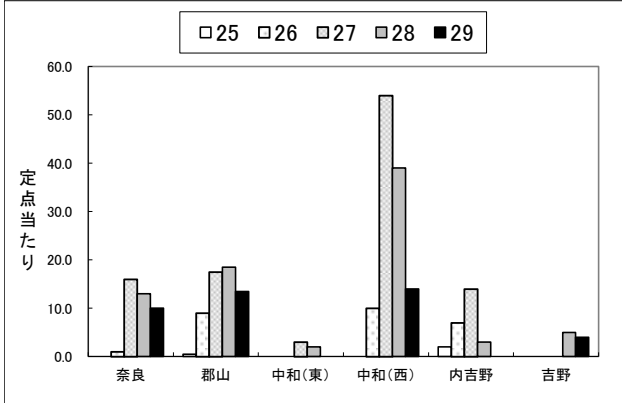
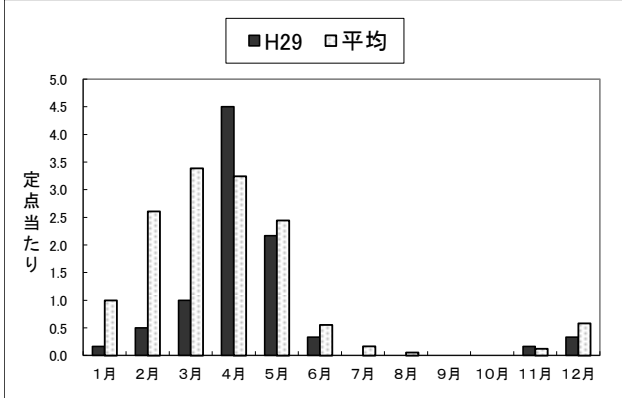


図 19-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



コメント

平成29年における全報告数は55件で、定点あたりの報告数は9.2であった。全国順位は27年は3位であったが、28年は13位、29年26位と改善傾向にある。報告数もここ3年、減少傾向にある。すでにロタワクチンが任意とは言え接種可能となっている。奈良県における接種状況は明らかではないが、ロタウイルスワクチンの成果も考えられ、罹患率のさらなる減少を期待する。

(矢野 寿一 記)

性感染症(STD)定点分

20.性器クラミジア感染症

図 20-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

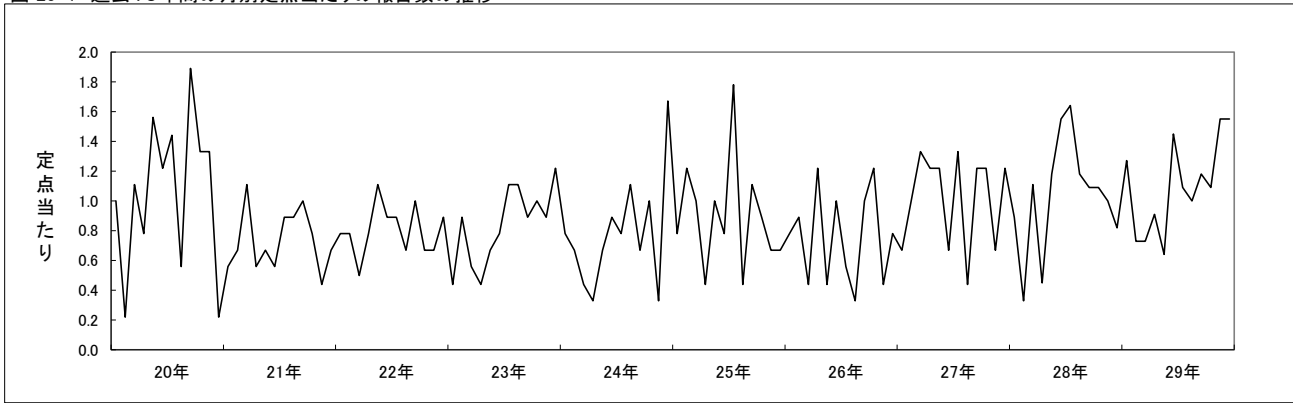


図 20-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

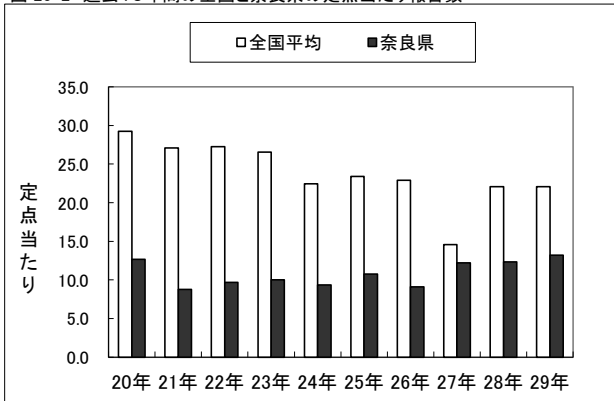


図 20-5 年齢別報告数(実数)

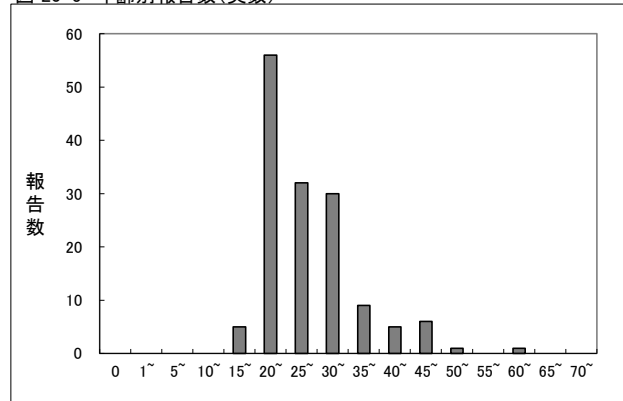
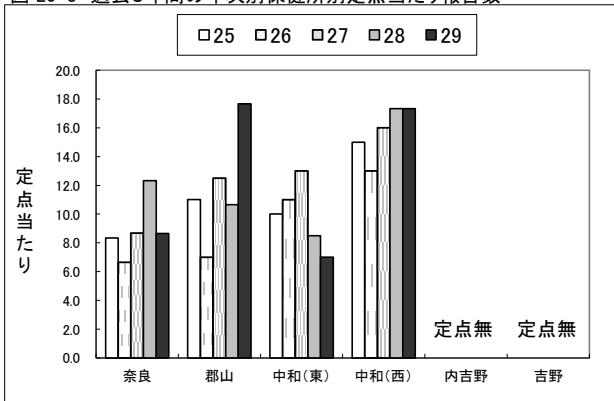


図 20-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

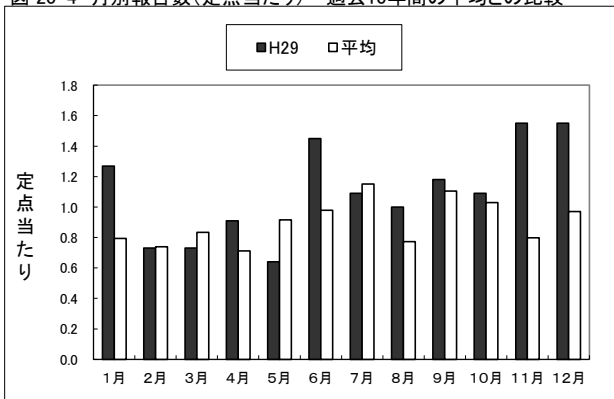


コメント

性器クラミジア感染症は、例年通り4疾患の中で定点当たりの報告数が第1位で、他の3疾患と比較して2-3倍の報告件数であった。昨年と比較して、報告数はほぼ同数であったが、全国平均と比較するとかなり低かった。保健所別にみると、郡山地区の増加が著しく地区別では第1位となったが、一方で奈良市および中和(東)地区は減少した。月別報告数では、昨年は6-7月の夏場にピークが観察されたが、今年は夏場はむしろ減少し、1月、11-12月の冬期の増加が著しかった。年齢別では、例年通り20代が最も多かったが、今年は15-19歳の減少がみられた。

(三馬 省二 記)

図 20-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



21.性器ヘルペスウイルス感染症

図 21-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

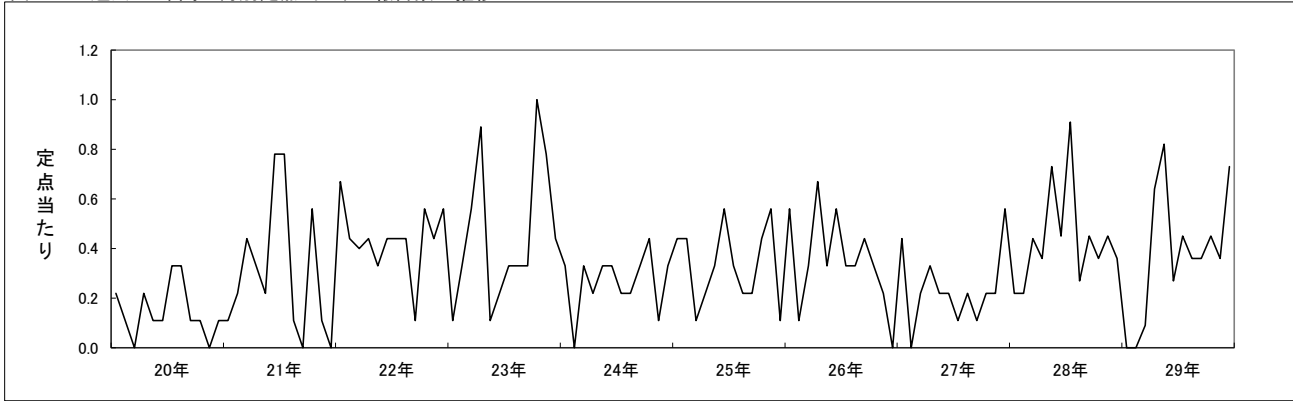


図 21-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

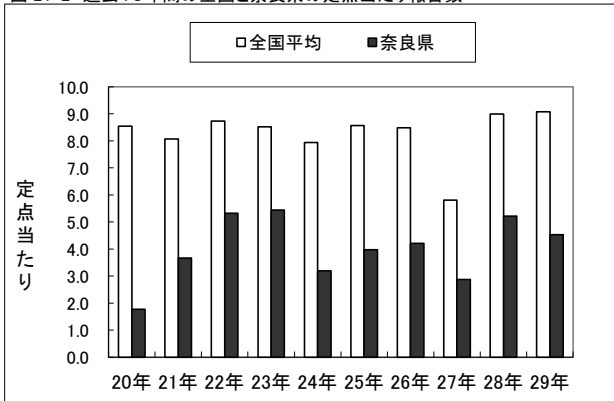


図 21-5 年齢別報告数(実数)

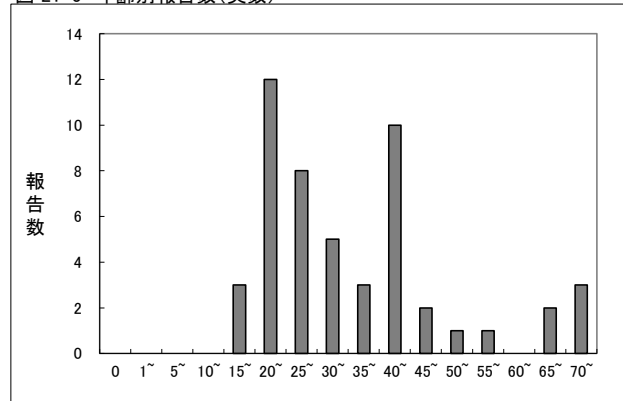
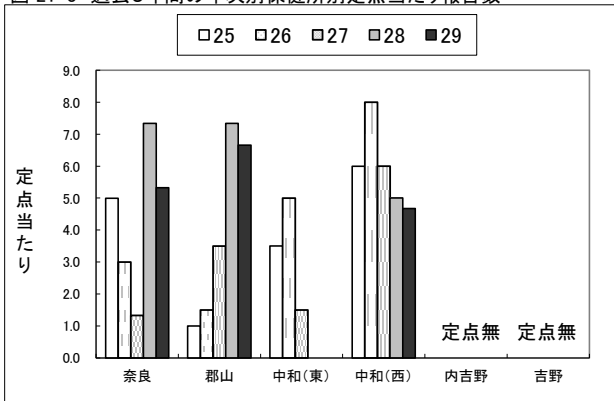


図 21-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

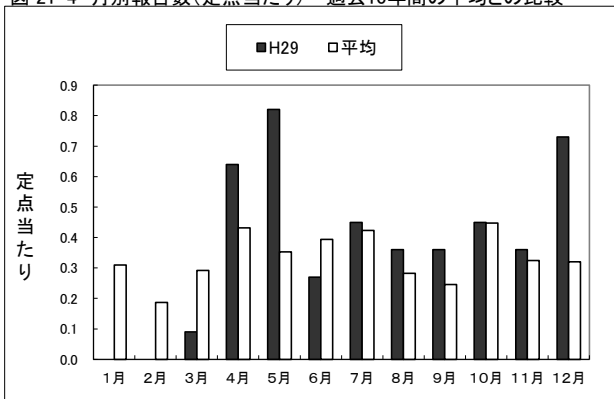


コメント

性器ヘルペスウイルス感染症は、昨年は報告数が増加し、4疾患中第2位であったが、今年は減少し、淋菌感染症とほぼ同数となった。全国平均と比較した場合、例年通り約半数であった。保健所別では、いずれの保健所においても減少し、特に中和(東)では報告がなかった。月別では、昨年は5月、7月が群を抜いて多かったが、今年に関しては、5月は昨年並みに多かったが、4月、12月が著明に増加していた。一方、1月2月に報告がなかった。年齢別では、昨年多かった30歳代が減少した。昨年認められた10-14歳の報告はなかった。

(三馬 省二 記)

図 21-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



22.尖圭コンジローマ

図 22-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

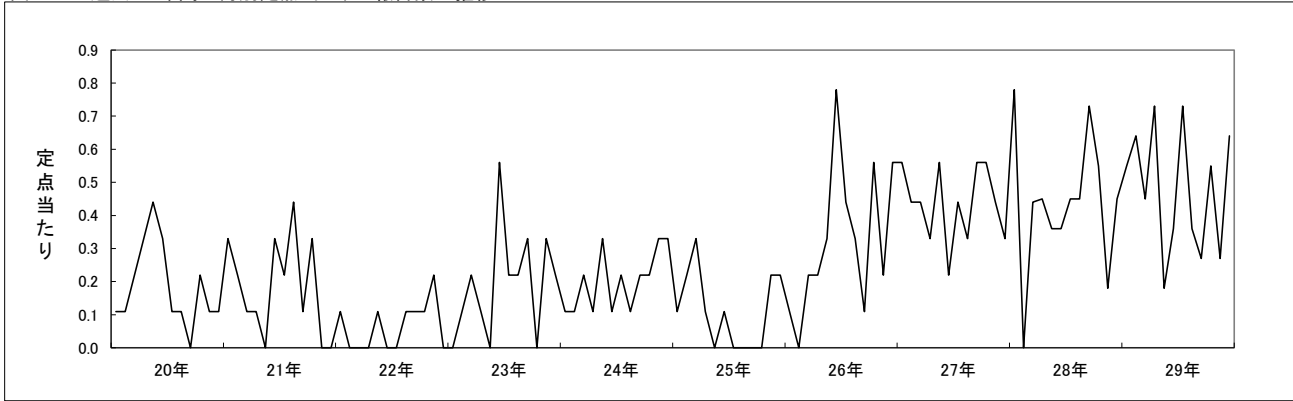


図 22-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

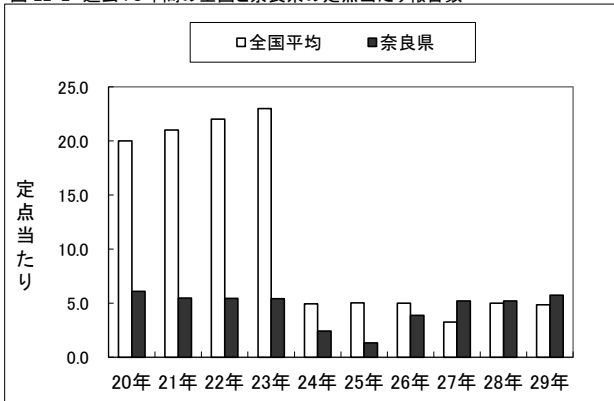


図 22-5 年齢別報告数(実数)

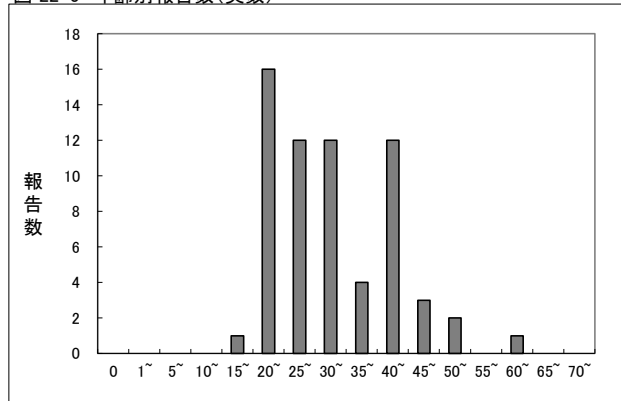
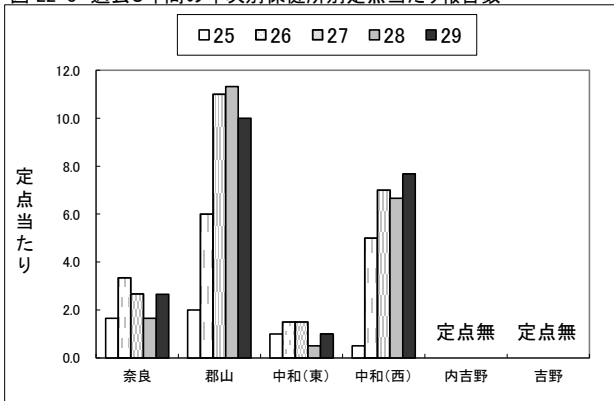


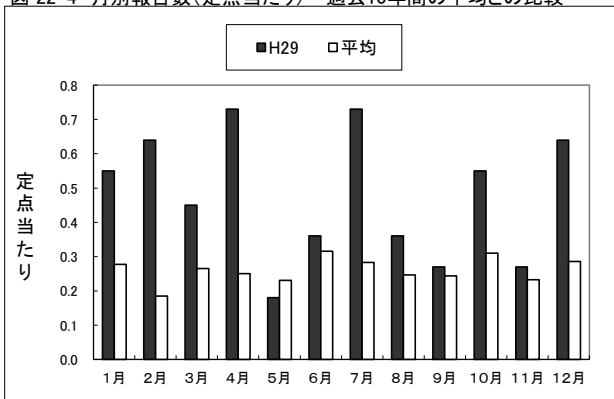
図 22-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

尖圭コンジローマの報告数は横ばいであったが、4疾患の中では報告数で第2位に返り咲いた。4疾患では唯一全国平均を上回る疾患である。保健所別では例年通り、郡山が最も多く、以下中和(西)、奈良と続き、中和(東)が最も少ない。月別では、性器ヘルペスと逆に5月が最も少ないのが特徴的であった。年齢別では、20-44歳が増加傾向であり、35-39歳は減少したが、年齢分布は昨年と大差はなかった。
(三馬 省二 記)

図 22-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



23.淋菌感染症

図 23-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

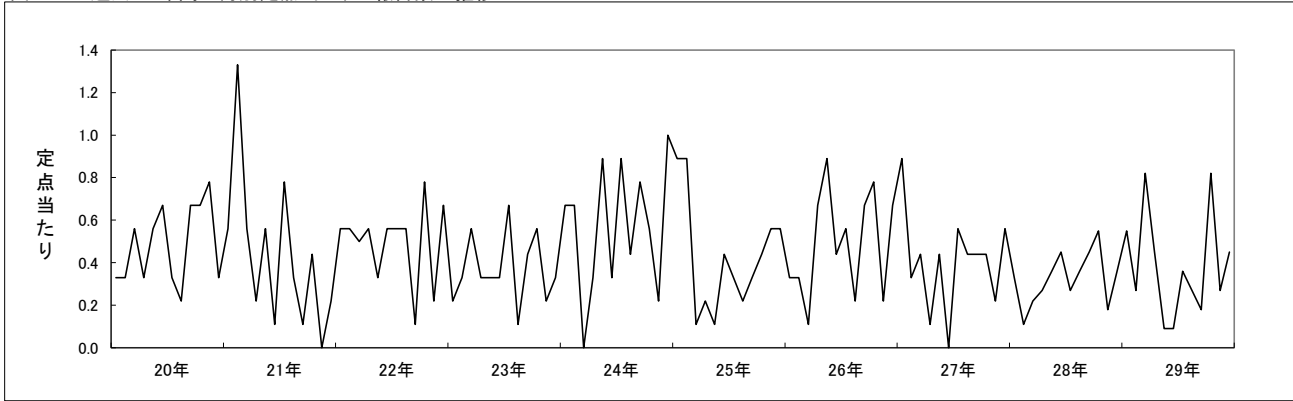


図 23-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

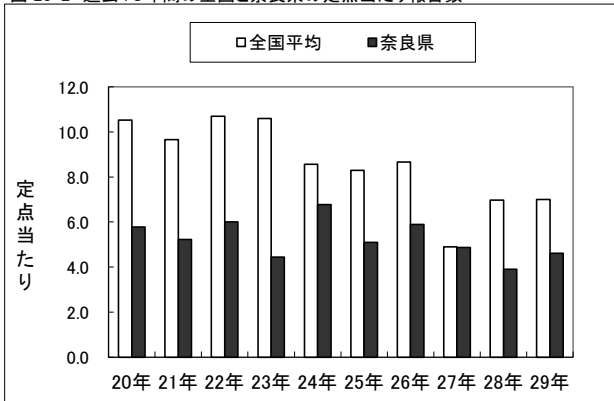


図 23-5 年齢別報告数(実数)

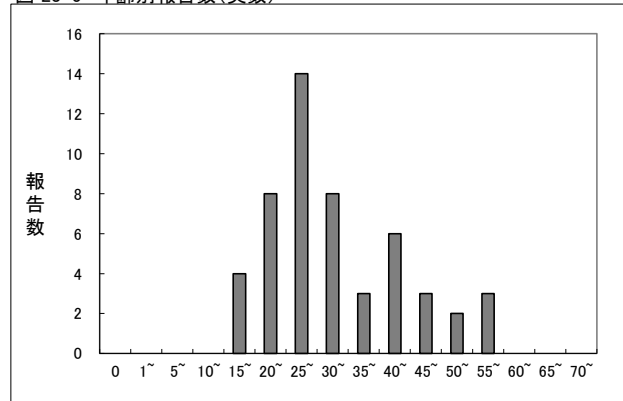
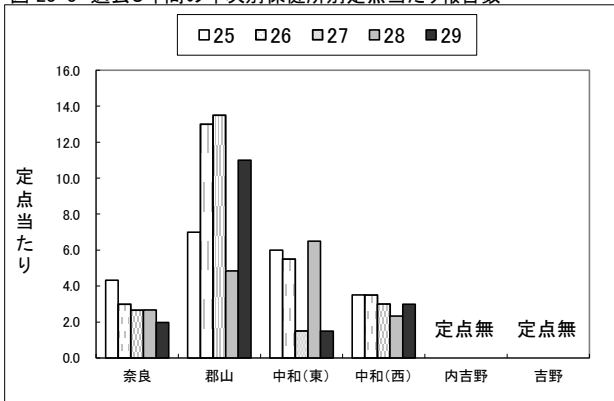


図 23-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

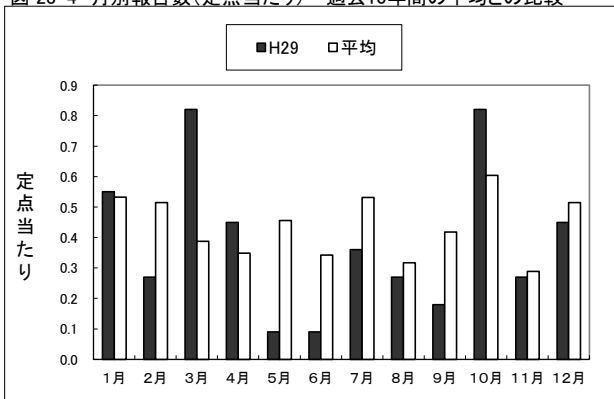


コメント

淋菌感染症はほぼ昨年と同数の報告であった。保健所別では、昨年少なかった郡山で例年並みに再び増加したが、中和(東)で減少した。月別では昨年と異なり、1月-3月が増加し、5月-9月が減少した。他の疾患同様、月別報告数に一定の傾向はなく、年により異なったパターンが観察される。年齢別では15-19歳の若年層の報告が減少したが、20-39歳で増加し、特に25-29歳で著明に増加した。

(三馬 省二 記)

図 23-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



基幹定点分(月報)

24.メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

図 24-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

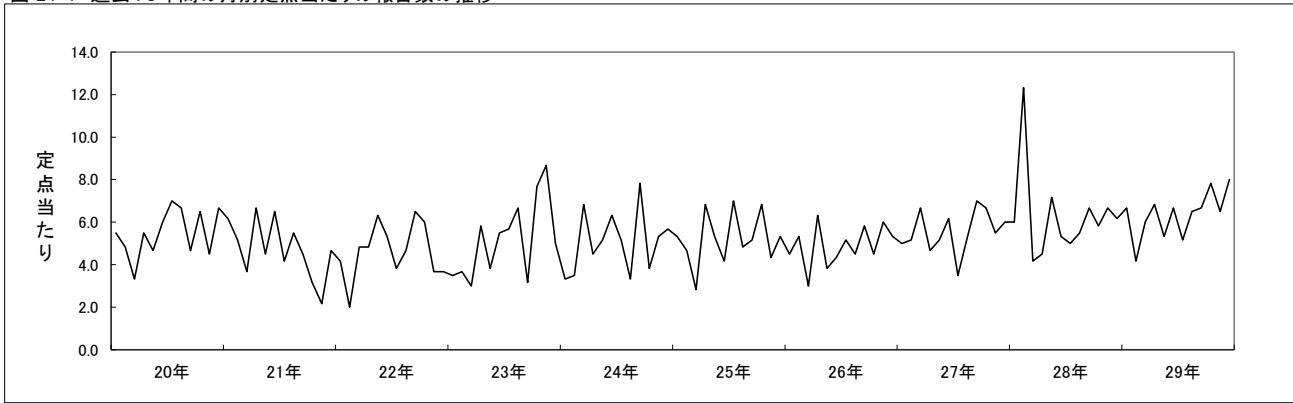


図 24-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

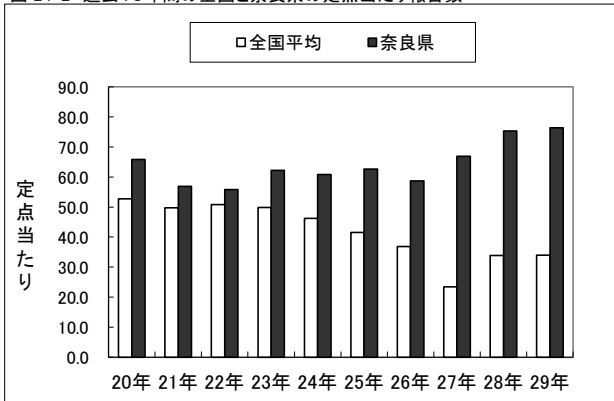


図 24-5 年齢別報告数(実数)

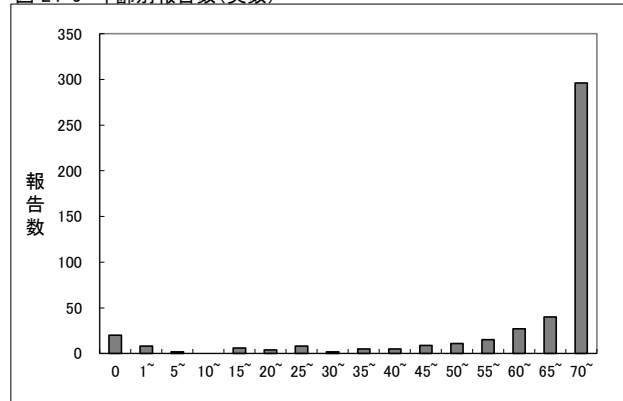
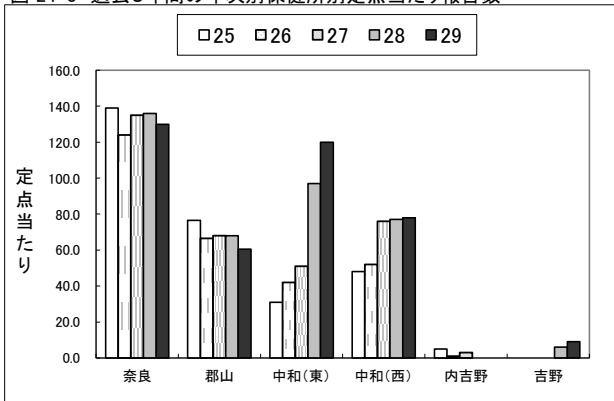


図 24-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

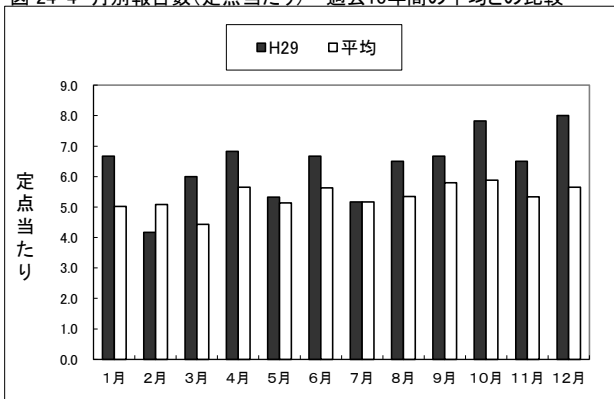


コメント

平成29年における報告数は458例で、定点あたりの報告数は76.3であり、全国順位も28年同様ワースト1位となってしまった。全国的にはMRSA感染症の定点当たり報告数は減少傾向にあるものの、奈良県ではいまだ微増傾向がみられる。近年、奈良県で市中感染型MRSAという耐性菌の報告が増えている。市中感染型MRSAは、従来の院内感染型MRSAに比べ病原性が高く伝播拡散しやすい性質があり、本菌による関与も懸念される。県内医療機関の医療関連感染対策のさらなる徹底が必要であろう。

(矢野 寿一 記)

図 24-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較



25.ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

図 25-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

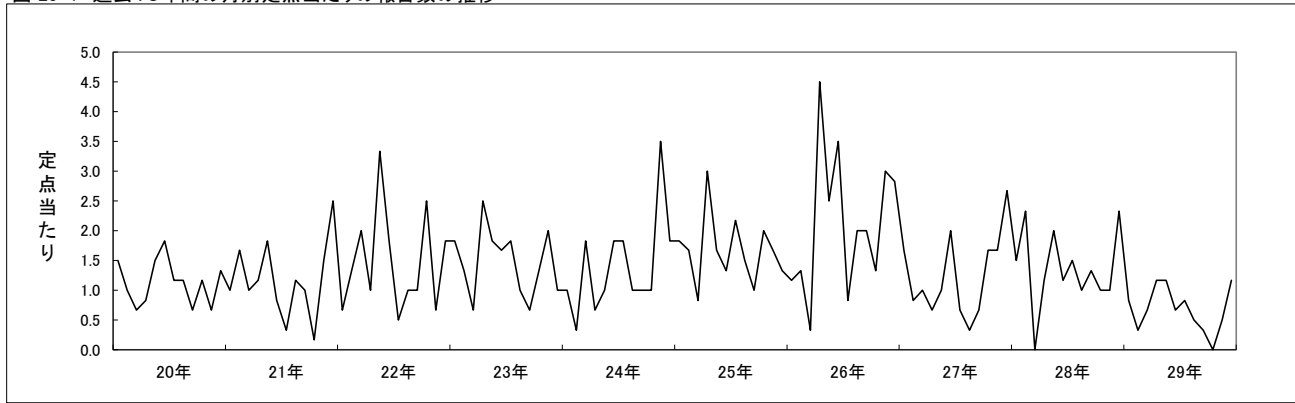


図 25-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

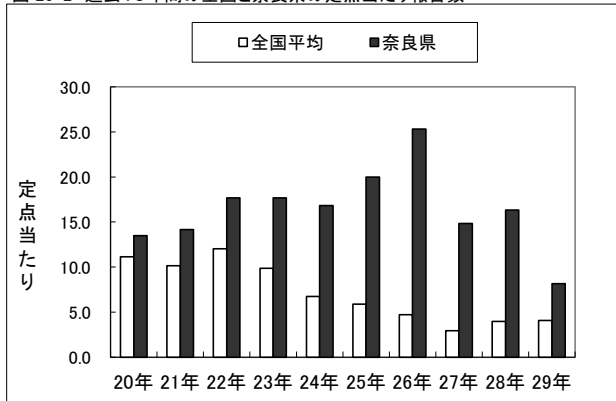


図 25-5 年齢別報告数(実数)

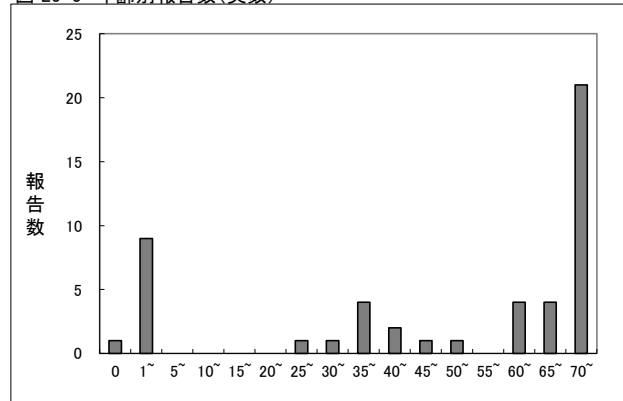
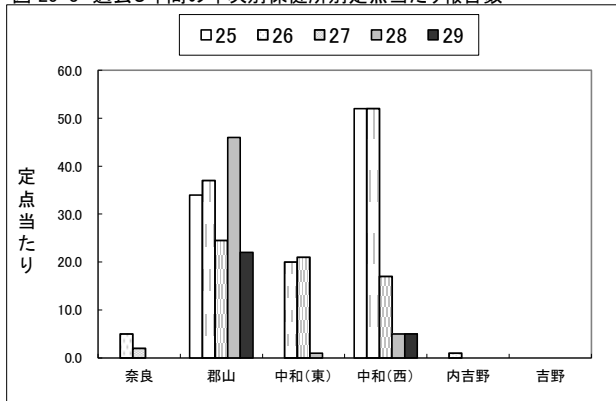


図 25-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数

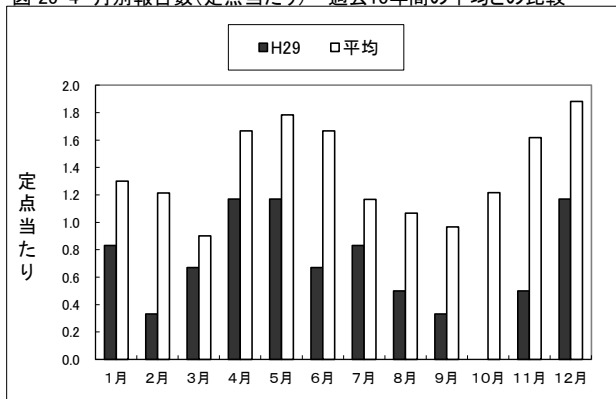


コメント

平成29年における報告数は49例、定点あたりの報告数は8.17であった。平成28年に比べ半減し、全国順位も昨年の2位から7位へと若干改善したものの、悪い順位で維持されている。奈良県におけるワクチン接種率は定かでないが、全国と比べてそれが低いことが示唆され、接種率増加を期待したい。

(矢野 寿一 記)

図 25-4 月別報告数(定点あたり)ー過去10年間の平均との比較



26.薬剤耐性緑膿菌感染症

図 26-1 過去10年間の月別定点当たりの報告数の推移

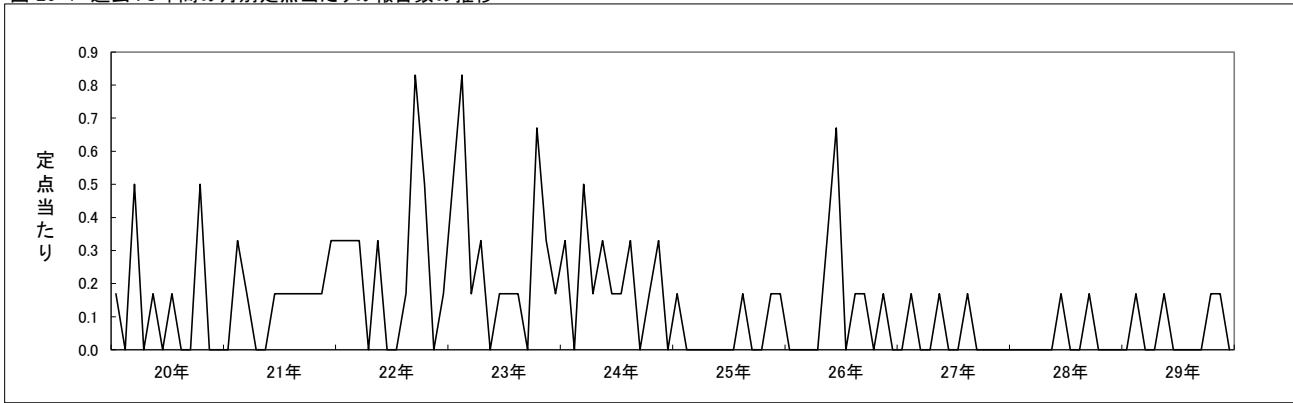


図 26-2 過去10年間の全国と奈良県の定点当たり報告数

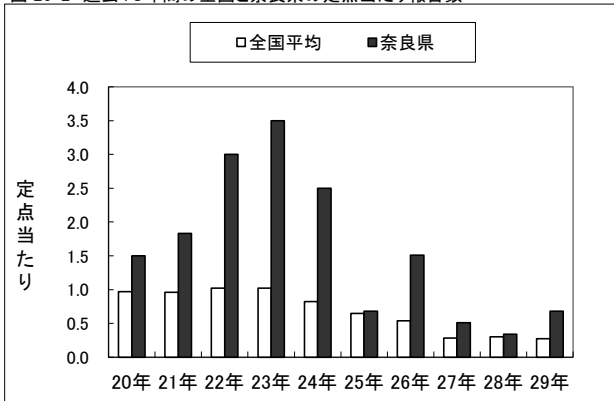


図 26-5 年齢別報告数(実数)

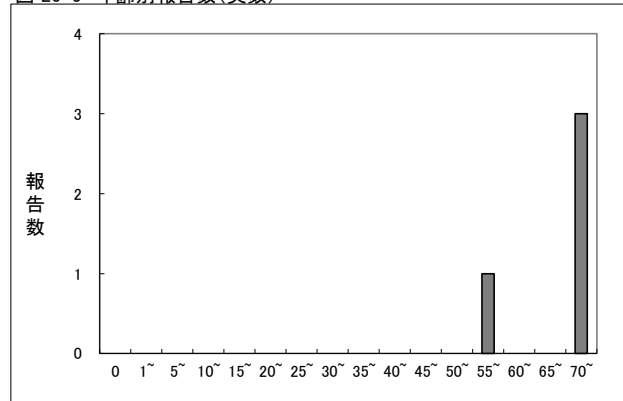
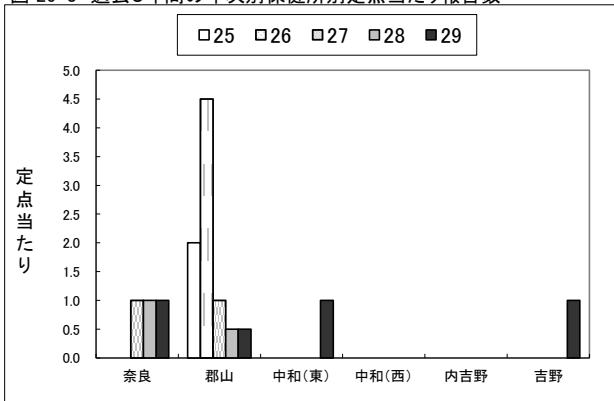


図 26-3 過去5年間の年次別保健所別定点当たり報告数



コメント

平成29年の全報告数は4例で、定点あたりの報告数は0.68であった。奈良県における定点当たりの報告数は23年から28年まで減少傾向にあったが、29年は増加してしまっている。全国順位も28年の17位から6位へと悪化している。MRSA感染症が全国ワーストであり、薬剤耐性緑膿菌感染症もかなり悪い全国順位であることから、各医療機関における徹底した標準予防策遵守が強く望まれる。

(矢野 寿一 記)

図 26-4 月別報告数(定点当たり)ー過去10年間の平均との比較

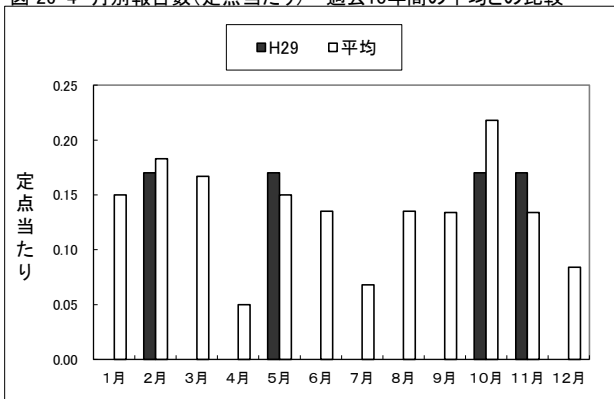


表1 疾患別・月別報告数

報告実数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	3,898	4,720	1,215	321	92	11	6	3	12	20	236	1,558	12,092
RSウイルス感染症	126	94	103	107	30	31	57	278	395	263	381	370	2,235
咽頭結膜熱	37	66	65	134	186	251	83	82	64	46	65	71	1,150
A群溶連菌咽頭炎	151	277	448	283	333	562	261	187	150	223	344	293	3,512
感染症胃腸炎	398	412	534	724	901	1,325	568	486	352	374	535	678	7,287
水痘	36	21	35	42	63	92	49	53	66	56	163	116	792
手足口病	21	21	28	18	103	378	1,123	843	155	283	259	97	3,329
伝染性紅斑	5	4	10	8	10	18	11	7	10	10	11	7	111
突発性発しん	58	52	71	67	89	90	55	86	72	69	76	55	840
百日咳	0	0	1	0	1	0	6	0	0	1	2	0	11
ヘルパンギーナ	3	4	3	7	24	79	189	162	85	61	49	25	691
流行性耳下腺炎	136	117	143	84	83	93	42	46	21	25	24	8	822
計	971	1,068	1,441	1,474	1,823	2,919	2,444	2,230	1,370	1,411	1,909	1,720	20,780
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
流行性角結膜炎	29	6	22	15	34	39	21	26	27	27	25	12	283
計	29	6	22	15	34	39	22	26	27	28	25	12	285
細菌性髄膜炎	1	1	1	5	1	1	0	3	3	1	1	1	19
無菌性髄膜炎	4	1	2	1	4	5	3	2	3	2	1	0	28
マイコプラズマ肺炎	17	12	21	16	12	7	3	12	5	6	12	5	128
クラミジア肺炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	3	6	27	13	2	0	0	0	0	1	2	55
計	23	17	31	49	30	15	6	17	11	9	15	8	231
性器クラミジア感染症	14	8	8	10	7	16	12	11	13	12	17	17	145
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	1	7	9	3	5	4	4	5	4	8	50
尖圭コンジローマ	6	7	5	8	2	4	8	4	3	6	3	7	63
淋菌感染症	6	3	9	5	1	1	4	3	2	9	3	5	51
計	26	18	23	30	19	24	29	22	22	32	27	37	309
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	40	25	36	41	32	40	31	39	40	47	39	48	458
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	2	4	7	7	4	5	3	2	0	3	7	49
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	4
計	45	28	40	48	40	44	36	42	42	48	43	55	511

定点当たり報告数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	72.19	87.41	22.50	5.94	1.70	0.20	0.11	0.06	0.22	0.37	4.37	28.85	223.93
RSウイルス感染症	3.71	2.76	3.03	3.15	0.88	0.91	1.68	8.18	11.62	7.74	11.21	10.88	65.74
咽頭結膜熱	1.09	1.94	1.91	3.94	5.47	7.38	2.44	2.41	1.88	1.35	1.91	2.09	33.82
A群溶連菌咽頭炎	4.44	8.15	13.18	8.32	9.79	16.53	7.68	5.50	4.41	6.56	10.12	8.62	103.29
感染症胃腸炎	11.71	12.12	15.71	21.29	26.50	38.97	16.71	14.29	10.35	11.00	15.74	19.94	214.32
水痘	1.06	0.62	1.03	1.24	1.85	2.71	1.44	1.56	1.94	1.65	4.79	3.41	23.29
手足口病	0.62	0.62	0.82	0.53	3.03	11.12	33.03	24.79	4.56	8.32	7.62	2.85	97.91
伝染性紅斑	0.15	0.12	0.29	0.24	0.29	0.53	0.32	0.21	0.29	0.29	0.32	0.21	3.26
突発性発しん	1.71	1.53	2.09	1.97	2.62	2.65	1.62	2.53	2.12	2.03	2.24	1.62	24.71
百日咳	0.00	0.00	0.03	0.00	0.03	0.00	0.18	0.00	0.00	0.03	0.06	0.00	0.32
ヘルパンギーナ	0.09	0.12	0.09	0.21	0.71	2.32	5.56	4.76	2.50	1.79	1.44	0.74	20.32
流行性耳下腺炎	4.00	3.44	4.21	2.47	2.44	2.74	1.24	1.35	0.62	0.74	0.71	0.24	24.18
計	28.56	31.41	42.38	43.35	53.62	85.85	71.88	65.59	40.29	41.50	56.15	50.59	611.18
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.10	0.00	0.00	0.20
流行性角結膜炎	2.90	0.60	2.20	1.50	3.40	3.90	2.10	2.60	2.70	2.70	2.50	1.20	28.30
計	2.90	0.60	2.20	1.50	3.40	3.90	2.20	2.60	2.70	2.80	2.50	1.20	28.50
細菌性髄膜炎	0.17	0.17	0.17	0.83	0.17	0.17	0.00	0.50	0.50	0.17	0.17	0.17	3.17
無菌性髄膜炎	0.67	0.17	0.33	0.17	0.67	0.83	0.50	0.33	0.50	0.33	0.17	0.00	4.67
マイコプラズマ肺炎	2.83	2.00	3.50	2.67	2.00	1.17	0.50	2.00	0.83	1.00	2.00	0.83	21.33
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0.17	0.50	1.00	4.50	2.17	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.33	9.17
計	3.83	2.83	5.17	8.17	5.00	2.50	1.00	2.83	1.83	1.50	2.50	1.33	38.50
性器クラミジア感染症	1.27	0.73	0.73	0.91	0.64	1.45	1.09	1.00	1.18	1.09	1.55	1.55	13.18
性器ヘルペスウイルス感染症	0.00	0.00	0.09	0.64	0.82	0.27	0.45	0.36	0.36	0.45	0.36	0.73	4.55
尖圭コンジローマ	0.55	0.64	0.45	0.73	0.18	0.36	0.73	0.36	0.27	0.55	0.27	0.64	5.73
淋菌感染症	0.55	0.27	0.82	0.45	0.09	0.09	0.36	0.27	0.18	0.82	0.27	0.45	4.64
計	2.36	1.64	2.09	2.73	1.73	2.18	2.64	2.00	2.00	2.91	2.45	3.36	28.09
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6.67	4.17	6.00	6.83	5.33	6.67	5.17	6.50	6.67	7.83	6.50	8.00	76.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.83	0.33	0.67	1.17	1.17	0.67	0.83	0.50	0.33	0.00	0.50	1.17	8.17
薬剤耐性緑膿菌感染症	0.00	0.17	0.00	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.17	0.00	0.67
計	7.50	4.67	6.67	8.00	6.67	7.33	6.00	7.00	7.00	8.00	7.17	9.17	85.17

表2-1 疾患別・年齢別報告数

年齢	0-6M	7-12M	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-	合計	
インフルエンザ	31	100	436	456	513	653	688	731	697	688	579	2,205	884	568	657	776	594	436	252	148	12,092	
RSウイルス感染症	200	401	813	415	212	114	38	22	6	6	1	6	0	1							2,235	
咽頭結膜熱	7	84	331	181	165	114	105	64	37	16	16	25	0	5							1,150	
A群溶連菌咽頭炎	4	19	258	322	414	501	480	397	306	241	167	294	21	88							3,512	
感染症胃腸炎	58	425	1,270	874	801	696	554	401	315	254	177	493	164	805							7,287	
水痘	6	21	55	60	86	117	113	80	73	67	45	60	1	8							792	
手足口病	30	304	1,273	754	380	269	142	65	31	19	10	27	2	23							3,329	
伝染性紅斑	0	3	12	8	17	15	14	13	12	5	5	5	0	2							111	
突発性発しん	9	264	460	80	19	5	2	1	0	0	0	0	0	0							840	
百日咳	2	1	0	3	2	0	0	1	1	0	0	0	0	1							11	
ヘルパンギーナ	6	64	210	143	95	61	42	22	11	10	12	6	3	6							691	
流行性耳下腺炎	1	3	25	42	83	110	121	113	77	87	48	102	2	8							822	
計	323	1,589	4,707	2,882	2,274	2,002	1,611	1,179	869	705	481	1,018	193	947	0	0	0	0	0	0	20,780	
急性出血性結膜炎	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
流行性角結膜炎	1	1	7	2	13	14	2	5	1	2	3	7	10	27	63	46	31	25	23	0	283	
計	1	1	7	3	13	15	2	5	1	2	3	7	10	27	63	46	31	25	23	0	285	
年齢	0	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70-	合計					
細菌性髄膜炎	1	2	1	0	1	0	0	1	0	2	1	0	2	0	3	5	19					
無菌性髄膜炎	4	5	6	3	1	1	1	0	2	0	1	0	0	0	0	4	28					
マイコプラズマ肺炎	1	21	65	23	4	2	1	2	1	4	3	0	0	1	0	0	128					
クラミジア肺炎	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1					
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	6	34	11	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	55					
計	12	62	84	28	6	3	2	3	3	8	5	0	2	1	3	9	231					
性器クラミジア感染症	0	0	0	0	5	56	32	30	9	5	6	1	0	1	0	0	145					
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	0	0	3	12	8	5	3	10	2	1	1	0	2	3	50					
尖圭コンジローマ	0	0	0	0	1	16	12	12	4	12	3	2	0	1	0	0	63					
淋菌感染症	0	0	0	0	4	8	14	8	3	6	3	2	3	0	0	0	51					
計	0	0	0	0	13	92	66	55	19	33	14	6	4	2	2	3	309					
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	20	8	2	0	6	4	8	2	5	5	9	11	15	27	40	296	458					
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	9	0	0	0	0	1	1	4	2	1	1	0	4	4	21	49					
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	4					
計	21	17	2	0	6	4	9	3	9	7	10	12	16	31	44	320	511					

年齢別報告数(実数:10歳以上は1歳平均)

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
インフルエンザ	131.0	436.0	456.0	513.0	653.0	688.0	731.0	697.0	688.0	579.0	441.0	176.8	56.8	65.7	77.6	59.4	43.6	25.2	14.8
RSウイルス感染症	601.0	813.0	415.0	212.0	114.0	38.0	22.0	6.0	6.0	1.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
咽頭結膜熱	91.0	331.0	181.0	165.0	114.0	105.0	64.0	37.0	16.0	16.0	5.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
A群溶連菌咽頭炎	23.0	258.0	322.0	414.0	501.0	480.0	397.0	306.0	241.0	167.0	58.8	4.2	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
感染症胃腸炎	483.0	1,270.0	874.0	801.0	696.0	554.0	401.0	315.0	254.0	177.0	98.6	32.8	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
水痘	27.0	55.0	60.0	86.0	117.0	113.0	80.0	73.0	67.0	45.0	12.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
手足口病	334.0	1,273.0	754.0	380.0	269.0	142.0	65.0	31.0	19.0	10.0	5.4	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
伝染性紅斑	3.0	12.0	8.0	17.0	15.0	14.0	13.0	12.0	5.0	5.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
突発性発しん	273.0	460.0	80.0	19.0	5.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
百日咳	3.0	0.0	3.0	2.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ヘルパンギーナ	70.0	210.0	143.0	95.0	61.0	42.0	22.0	11.0	10.0	12.0	1.2	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性耳下腺炎	4.0	25.0	42.0	83.0	110.0	121.0	113.0	77.0	87.0	48.0	20.4	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	1,912.0	4,707.0	2,882.0	2,274.0	2,002.0	1,611.0	1,179.0	869.0	705.0	481.0	203.6	38.6	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	15歳	20歳	30歳	40歳	50歳	60歳	70歳	80歳
急性出血性結膜炎	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
流行性角結膜炎	1.0	7.0	2.0	13.0	14.0	2.0	5.0	1.0	2.0	3.0	1.4	2.0	2.7	6.3	4.6	3.1	2.5	2.3	0.0
計	1.0	7.0	3.0	13.0	15.0	2.0	5.0	1.0	2.0	3.0	1.4	2.0	2.7	6.3	4.6	3.1	2.5	2.3	0.0

表2-2 疾患別・世代別報告数

疾患別・世代別 1歳平均 換算表

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期	高齢期	
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20~59歳	60歳~	
インフルエンザ	131.0	549.2	544.4	176.8	64.9	27.9	
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳~		
RSウイルス感染症	601.0	318.4	4.6	0.0	0.0		
咽頭結膜熱	91.0	179.2	17.6	0.0	0.1		
A群溶連菌咽頭炎	23.0	395.0	156.1	4.2	1.3		
感染症胃腸炎	483.0	839.0	182.2	32.8	11.5		
水痘	27.0	86.2	36.1	0.2	0.1		
手足口病	334.0	563.6	16.9	0.4	0.3		
伝染性紅斑	3.0	13.2	4.4	0.0	0.0		
突発性発しん	273.0	113.2	0.1	0.0	0.0		
百日咳	3.0	1.0	0.2	0.0	0.0		
ヘルパンギーナ	70.0	110.2	6.8	0.6	0.1		
流行性耳下腺炎	4.0	76.2	47.4	0.4	0.1		
計	1,912.0	2,695.2	472.4	38.6	13.5		

小児科定点の疾患別・世代別割合

世代	乳児期	幼児期	学童期	思春期	成人期
年齢	0歳	1~5歳	6~14歳	15~19歳	20歳~
RSウイルス感染症	31.4%	11.8%	1.0%	0.0%	0.1%
咽頭結膜熱	4.8%	6.6%	3.7%	0.0%	0.5%
A群溶連菌咽頭炎	1.2%	14.7%	33.0%	10.9%	9.3%
感染症胃腸炎	25.3%	31.1%	38.6%	85.0%	85.0%
水痘	1.4%	3.2%	7.6%	0.5%	0.8%
手足口病	17.5%	20.9%	3.6%	1.0%	2.4%
伝染性紅斑	0.2%	0.5%	0.9%	0.0%	0.2%
突発性発しん	14.3%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%
百日咳	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
ヘルパンギーナ	3.7%	4.1%	1.4%	1.6%	0.6%
流行性耳下腺炎	0.2%	2.8%	10.0%	1.0%	0.8%
計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表3 疾患別・保健所別報告数

報告実数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	3,195	3,054	2,222	2,798	280	543	6,249	5,020	823	12,092
RSウイルス感染症	325	352	614	840	1	103	677	1,454	104	2,235
咽頭結膜熱	205	328	218	331	0	68	533	549	68	1,150
A群溶連菌咽頭炎	538	709	249	1,803	1	212	1,247	2,052	213	3,512
感染症胃腸炎	1,481	1,572	1,700	2,247	131	156	3,053	3,947	287	7,287
水痘	205	238	159	136	17	37	443	295	54	792
手足口病	729	886	712	887	15	100	1,615	1,599	115	3,329
伝染性紅斑	24	14	36	19	7	11	38	55	18	111
突発性発しん	244	168	174	235	1	18	412	409	19	840
百日咳	5	4	2	0	0	0	9	2	0	11
ヘルパンギーナ	161	202	123	131	16	58	363	254	74	691
流行性耳下腺炎	150	308	158	164	12	30	458	322	42	822
計	4,067	4,781	4,145	6,793	201	793	8,848	10,938	994	20,780
急性出血性結膜炎	0	0	0	2	0	0	0	2	0	2
流行性角結膜炎	94	98	35	56	0	0	192	91	0	283
計	94	98	35	58	0	0	192	93	0	285
細菌性髄膜炎	0	10	8	1	0	0	10	9	0	19
無菌性髄膜炎	3	9	12	0	0	4	12	12	4	28
マイコプラズマ肺炎	8	38	6	39	0	37	46	45	37	128
クラミジア肺炎	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	10	27	0	14	0	4	37	14	4	55
計	21	84	26	55	0	45	105	81	45	231
性器クラミジア感染症	26	53	14	52	0	0	79	66	0	145
性器ヘルペスウイルス感染症	16	20	0	14	0	0	36	14	0	50
尖圭コンジローマ	8	30	2	23	0	0	38	25	0	63
淋菌感染症	6	33	3	9	0	0	39	12	0	51
計	56	136	19	98	0	0	192	117	0	309
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	130	121	120	78	0	9	251	198	9	458
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0	44	0	5	0	0	44	5	0	49
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	1	1	0	0	1	2	1	1	4
計	131	166	121	83	0	10	297	204	10	511

定点当たり報告数

	奈良市	郡山	中和(東)	中和(西)	内吉野	吉野	北部	中部	南部	奈良県
インフルエンザ	228.21	218.14	202.00	279.80	140.00	181.00	223.18	239.05	164.60	223.93
RSウイルス感染症	36.11	39.11	87.71	140.00	1.00	51.50	37.61	111.85	34.67	65.74
咽頭結膜熱	22.78	36.44	31.14	55.17	0.00	34.00	29.61	42.23	22.67	33.82
A群溶連菌咽頭炎	59.78	78.78	35.57	300.50	1.00	106.00	69.28	157.85	71.00	103.29
感染症胃腸炎	164.56	174.67	242.86	374.50	131.00	78.00	169.61	303.62	95.67	214.32
水痘	22.78	26.44	22.71	22.67	17.00	18.50	24.61	22.69	18.00	23.29
手足口病	81.00	98.44	101.71	147.83	15.00	50.00	89.72	123.00	38.33	97.91
伝染性紅斑	2.67	1.56	5.14	3.17	7.00	5.50	2.11	4.23	6.00	3.26
突発性発しん	27.11	18.67	24.86	39.17	1.00	9.00	22.89	31.46	6.33	24.71
百日咳	0.56	0.44	0.29	0.00	0.00	0.00	0.50	0.15	0.00	0.32
ヘルパンギーナ	17.89	22.44	17.57	21.83	16.00	29.00	20.17	19.54	24.67	20.32
流行性耳下腺炎	16.67	34.22	22.57	27.33	12.00	15.00	25.44	24.77	14.00	24.18
計	451.89	531.22	592.14	1,132.17	201.00	396.50	491.56	841.38	331.33	611.18
急性出血性結膜炎	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.20
流行性角結膜炎	31.33	32.67	17.50	28.00	0.00	0.00	32.00	22.75	0.00	28.30
計	31.33	32.67	17.50	29.00	0.00	0.00	32.00	23.25	0.00	28.50
細菌性髄膜炎	0.00	5.00	8.00	1.00	0.00	0.00	3.33	4.50	0.00	3.17
無菌性髄膜炎	3.00	4.50	12.00	0.00	0.00	4.00	4.00	6.00	4.00	4.67
マイコプラズマ肺炎	8.00	19.00	6.00	39.00	0.00	37.00	15.33	22.50	37.00	21.33
クラミジア肺炎	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.17
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	10.00	13.50	0.00	14.00	0.00	4.00	12.33	7.00	4.00	9.17
計	21.00	42.00	26.00	55.00	0.00	45.00	35.00	40.50	45.00	38.50
性器クラミジア感染症	8.67	17.67	7.00	17.33	0.00	0.00	13.17	13.20	0.00	13.18
性器ヘルペスウイルス感染症	5.33	6.67	0.00	4.67	0.00	0.00	6.00	2.80	0.00	4.55
尖圭コンジローマ	2.67	10.00	1.00	7.67	0.00	0.00	6.33	5.00	0.00	5.73
淋菌感染症	2.00	11.00	1.50	3.00	0.00	0.00	6.50	2.40	0.00	4.64
計	18.67	45.33	9.50	32.67	0.00	0.00	32.00	23.40	0.00	28.09
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	130.00	60.50	120.00	78.00	0.00	9.00	83.67	99.00	9.00	76.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0.00	22.00	0.00	5.00	0.00	0.00	14.67	2.50	0.00	8.17
薬剤耐性緑膿菌感染症	1.00	0.50	1.00	0.00	0.00	1.00	0.67	0.50	1.00	0.67
計	131.00	83.00	121.00	83.00	0.00	10.00	99.00	102.00	10.00	85.17